週刊 YEAR BOOK

1932
昭和7年

日録20世紀

1|6・13
平成10年1月6・13日合併号発行
(毎週1回発行)第2巻第1号
¥560
講談社

"大森銀行ギャング事件"と
「スパイM」の素顔

クーデター
「五・一五事件」の全貌!

ワイズミューラーの
「ターザン映画」超ヒット

関東軍、「満州国」建国!

関東軍、ラストエンペラー・溥儀を擁立

「満州国」建国！——〝五族協和〟〝王道楽土〟の虚構

「満州国」の歴史は、大陸の「新国家」建設を推し進めたい関東軍と、清朝の復興を夢見る溥儀の間で繰り広げられた綱渡りの一三年五ヵ月だった。〝五族協和〟のかけ声に大勢の人々が夢を託したが、溥儀も含めてその多くが、無謀な〝王道楽土〟の悲劇の犠牲者になったのである。

磯部敬恒提供（左下とも）

▲「満州国」の通貨、1円（ユアン）。1932年12月20日発行。

▲黄地に赤・青・白・黒の5色で、「五族協和」を表した「満州国」国旗。

▲1934年、特急「あじあ号」営業開始記念タバコ。

▲「満州国」最初の郵便切手。図柄は執政・溥儀。

溥儀のかつぎ出しと陽動作戦「上海事変」

シャンデリアのある大広間には、白蘭などの花が飾られ、西側に中国の伝統的な正装に身を包んだ鄭孝胥や羅振玉、于沖漢らの中国側出席者が、東側には本庄繁関東軍司令官、板垣征四郎関東軍高級参謀らの日本側出席者が座っていた。

二〇〇人にのぼる参列者の間を黒のモーニングに長身蒼顔の青年が、前後に文武官を従えて進み、高壇に着席した。水を打ったように静かな式場からは、歓喜に震えた清朝の老臣のむせび泣きも聞こえてくる。この日、溥儀（二六）は、一〇年ぶりの晴れ舞台に立っていた。

一九三二年（昭和七）三月九日午後三時、八日前に建国した「満州国」の首都・長春で、辛亥革命（一九一一年）で倒れた清朝最後の皇帝「宣統帝」こと愛新覚羅溥儀が、建国式と執政就任式にのぞんだのである。執政宣誓、印綬の捧呈、内田康哉満鉄総裁の祝詞などの儀式の後、記念撮影も行われた。

祝賀の提灯が飾られた長春市内では、夜がふけるまで爆竹が焚かれ、一方、遠く離れた日本でも「満州国」の五色旗が銀座の老舗デパートの店内でゆらめいた。

◎表紙　「満州国」大元帥の正装に身を包んだ愛新覚羅溥儀。「歴史写真」

▲「満州国」建国直後に国都に定められた長春は、「新京」と改称され、新しい都市造りが開始された。写真は1934年1月の大同広場。左の建物は国務院。　毎日新聞社

満蒙（中国東北部と内モンゴル）の領有をねらっていた陸軍、中でも石原莞爾作戦主任参謀（四三）ら関東軍の高級将校は、前年の昭和六年九月一八日の柳条湖爆破に始まる「満州事変」を機に、満州全域への侵攻を本格化させた。「一〇月事件」などのクーデター事件で国内の政治家の恐怖心をあおり、一方で列国の非難を無視しながら傀儡政権の擁立に向けて準備を進めていたのである。

「資源の供給地や商品輸出のマーケット、さらには仮想敵国ソ連に備える戦略地になりうる満蒙を領有することが、政治や経済で袋小路にあった当時の日本の打開策になると考えられていたからです。関東軍はこうした国民感情も計算しながら、独立国家の建設に独走していきました」と解説するのは、筑波大学名誉教授で日中関係史に詳しい臼井勝美氏である。

▶三月九日、建国式・執政就任式後の記念撮影。溥儀（中央椅子）の左隣は本庄繁関東軍司令官。　毎日新聞社

まさに、この新国家建設のカギが清朝の“廃帝”溥儀のかつぎ出しだったが、天津にいた溥儀は当初、関東軍への猜疑心から首を縦に振ろうとはしなかった。「新国家は共和制、それとも帝政ですか。私は復辟（退位した君主が再び君位につく）でなければ、行きません」

態度の煮え切らない溥儀に、「もちろん帝国です」と断言した土肥原賢二関東軍奉天特務機関長は、昭和六年一一月八日、「天津暴動」を起こし、その混乱に乗じて溥儀を強引に連れ出して軟禁した。

と同時に、板垣大佐は、田中隆吉上海公使館付武官に「上海でことを起こせ」と指示。“男装の麗人”こと川島芳子（二六）の暗躍で、この年、昭和七年一月、「第一次上海事変」を起こさせた。満州から列国の目をそらすための陽動作戦である。事変が決着した三月三日には、すでに「満州国」は誕生していた。

実権はすべて日本人に文字どおりの傀儡国家

こうして登場した「満州国」（人口三四〇〇万人）は、石原参謀が提案した満・漢・蒙・日・朝の“五族協和”による“王道楽土（徳で国を治め安楽な土地を実現する）”を建国のスローガンにしていた。首相に相当する国務院（行政担当）の長＝国務総理には溥儀の側近・鄭孝胥が、国務院の下に分かれる八つの部（省に相当。外交、軍政など）の長にも熙洽、謝介石といった満州の実力者がついた。

ところが、日本人がつく国務院総務長官が事実上の首相であり、関東軍司令官が最高権力者であったように、実権を握っていたのはすべて日本人。国防なども関東軍が取りしきるありさまで、「満州国」は、文字どおりの傀儡国家だった。“百鬼夜行”そのままの「満州国」初期の混乱ぶりを象徴するのが、官僚グループ、満鉄出身者、東京採用組が繰り広げた政府ポストの争奪戦だろう。

▲9月15日、日満議定書が調印され、日本は「満州国」を正式承認した。当日、銀座に掲げられた祝賀の日・満大国旗。　共同通信社

関東軍、ラストエンペラー・溥儀を擁立

「満州国」建国！

――“五族協和”“王道楽土”の虚構

「満州国」略年表

年	月日	事項
1928年	6月 4日	関東軍、張作霖を爆殺。
1931年	9月18日	関東軍、柳条湖の満鉄線路を爆破（柳条湖事件）。「満州事変」始まる。
	11月10日	溥儀、関東軍・土肥原賢二大佐の手引きによって、天津を脱出し旅順へ。
1932年	1月28日	「上海事変」勃発。
	3月 1日	「満州国」建国宣言。
	3月 9日	溥儀、「満州国」執政に就任。
	3月10日	首都を長春に決定。同月16日、新京と改称。
	7月25日	「満州国協和会」発足。
	9月15日	日満議定書調印。日本、「満州国」を正式承認。
	10月 2日	リットン報告書発表。
	10月 5日	第1次武装移民団、神戸港から出発。
1933年	2月23日	日本軍、熱河省への侵攻開始。
	5月31日	塘沽停戦協定成立。満州と中国の分離が確定。
1934年	3月 1日	溥儀、皇帝に即位。「満州国」、帝政を実施。
	12月26日	対満事務局設置（総理大臣直属）。
1935年	3月23日	日満ソ、北満鉄道譲渡協定に調印。
1936年	8月25日	海外拓殖委員会、20年間で100万戸の満州移民計画を発表。
1937年	4月 1日	第1次満州産業開発5ヵ年計画実施。
	7月 7日	盧溝橋で日中両軍衝突。日中戦争に拡大。
	9月 1日	満州拓殖公社設立。
	12月27日	満州重工業開発会社（満業）設立。
1938年	2月26日	「満州国」、国家総動員法公布。
	4月 8日	満蒙開拓青少年義勇軍第1次訓練生の壮行式。
1939年	2月24日	「満州国」、日独伊防共協定に参加調印。
	5月11日	ノモンハンで「満州国」軍とモンゴル軍衝突。
1945年	8月 8日	ソ連軍、満州北部、朝鮮に進攻開始。
	8月18日	溥儀退位。翌日、奉天でソ連軍に逮捕される。
	8月20日	「満州国」滅亡。同日、ソ連軍が長春へ。

朝日新聞社

▲昭和7年10月2日、明治神宮に参拝する「第1次武装移民団」。416人が入植。

「副県長として地方へ出かけたものの中には、弁当売りや風呂屋の主人が、初めてモーニングを着こんで意気揚々と乗りこんでいく場面さえあった。実際のところ、満州政権初期の人事は、田舎芝居の初日と同様、早いもの勝ちに地位を占めたのだった」と、当時の奉天総領事・森島守人が後に語っているように、大勢の“にわか役人”が登場したのである。

さらに、建国後に日本からの投資が急増し（昭和一〇年には日満合弁会社が二五〇社以上）、一攫千金を夢見る仕事師や左翼インテリも続々と流れこんだ。

一方で、“五族協和”と“王道楽土”を宣伝文句に、国内で凶作に苦しむ農民を移民として大量に満州へ招き入れたのは関東軍である。対ソ戦が起きた時の第一線兵力に想定されていた、こうした武装移民は、昭和七年から一五年までに計二一四一戸にのぼり、一四年頃からは村ごと入植する分村も行われた。満州各地で「仙台村」「弥生村」などの開拓村が登場。先住していた中国人は一人約五円の移転料をもらったが、タダ同然で追い払われる例も少なくなかった。

実は、皇位に執着していた溥儀が執政への就任をしぶしぶ承諾したのは、建国前に「一年後に帝政に移行する」という密約を交わしたからだった。そこで、昭和九年三月一日、「満州国」に帝政が実施されたが、関東軍は同時に法を整備し、重工業化を進める満州五ヵ年計画を実施（一二年）。「満州国」を日本の国家改造の“実験場”として属国化していった。

▲1932年3月9日、建国式典と溥儀の執政就任式が行われた長春の街角で、祝賀の日・満国旗を振る子どもたち。

昭和二〇年八月一五日、日本の敗戦を受け、皇帝の役を演じ続けた溥儀が「退位の詔書」を発布。一三年五ヵ月にわたる「満州国」は幕を閉じたが、その実情は“一族（日本人）協和”だっただけに、終戦時には残留孤児問題につながるトラブルが多発した。国としての「満州国」は終わりを告げたが、そこで産み出された悲劇は今も終わっていないのである。

共産党を潰滅に導いた特高の罠！
“大森銀行ギャング事件”に暗躍した
「スパイM」の素顔

弾圧、再建を繰り返し、おもだったリーダーが獄中にあった共産党指導部に、特高警察と通じたスパイが入りこみ、最高幹部の座にすわっていた。その人物「スパイM」と呼ばれた男は、一方では有能な幹部として、戦前最高の党勢を築き、他方では銀行ギャングの扇動までして、その組織を破壊していたのである。

▶「スパイM」こと飯塚盈延。「M」は共産党の資金・組織を一手に握る最高幹部だった。写真は昭和一〇年頃、「M」がみずから撮ったもの。

◀襲われた川崎第百銀行大森支店（写真奥の建物）は、交番の目と鼻の先にあった。実行犯三人は、バーバリーのレインコートを着用していた。

朝日新聞社

白昼の銀行強盗は共産党の資金集め

昭和七年一〇月六日午後三時半頃、東京・大森の川崎第百銀行大森支店の裏口から、ピストルを持った三人組の男が侵入した。彼らは若い行員の前で、いきなり床に向けてピストルを発射した。行員が玩具のピストルと思い、にやりと笑ったからだ。三人は「静かにしろ！」と叫んだが、閉店直後で忙しく気づかない行員もいた。いらだった犯人は、支店長の足元にもう一発発射した。やっと事態に気づいた行内で、犯人は行員を整列させ、札束を赤いボストンバッグに詰めこんだ。それはほんの一〇分にも満たなかった。三人は、仲間の車に乗り逃走した。奪われた現金は三万一二三四円にのぼった。

逃走車は、大森駅で実行犯三人を降ろし、代わりにモーニングの紳士と、訪問着姿と洋装の二人の若い女性、そして現金を乗せ、都心に向かった。男は元京大教授で『貧乏物語』などを著した河上肇（はじめ）博士の義弟・大塚有章（ゆうしょう）（三五）、訪問着の女性は河上の娘・芳子である。この事件は、共産党による資金調達作戦だった。党所有の逃走車は、非常線をくぐり抜け、新橋のアジトに無事到着している。

「実は二度、検問にあった。ところが両方とも、警官がドアを開けるなり、失礼しました、といって通された。三人ともブルジョア的な盛装だったせいでしょう」

と後に大塚は語っている。

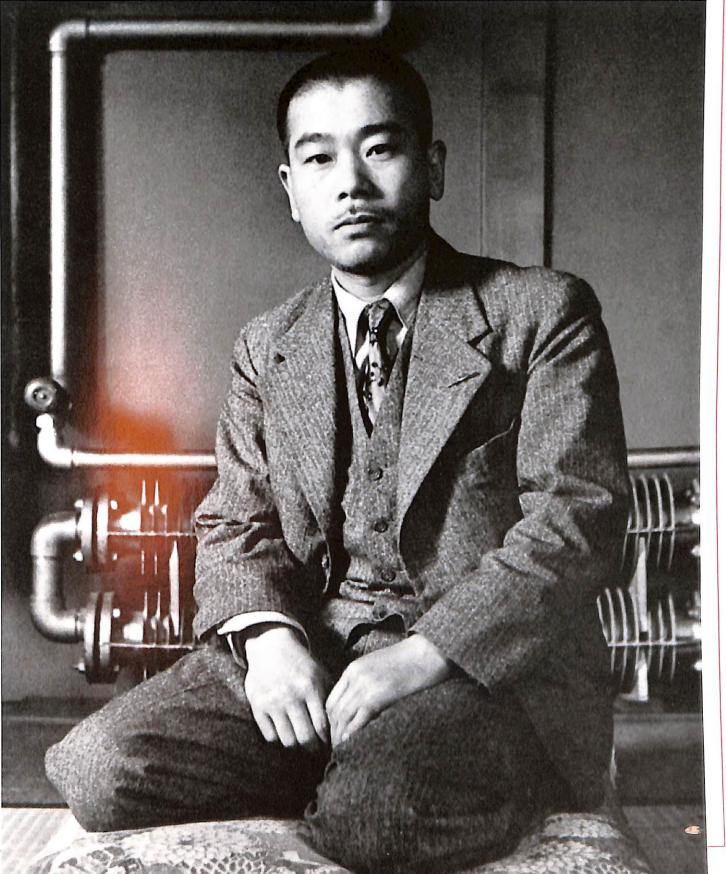
白昼の銀行強盗というだけで、十分に衝撃的だが、共産党員の犯行とわかり、世間は二重の衝撃を受けた。だが、後に、この作戦を指令した党幹部が、警視庁特高課長・毛利基（もとい）（四一）と通じたスパイと発覚し、さらに大きな波紋を呼ぶ。

「スパイM」と呼ばれるこの男は、松村昇と称していたが、本名は飯塚盈延（みつのぶ）（三〇）。明治三五年、愛媛県に生まれ、高等小学校を中退後上京し、労働運動に身を投じて、モスクワの東洋勤労者労働大学（クートベ）に四年間留学している。いわゆる“筋金入り”のはずだった。

組織の中枢にいた特高の「スパイM」

ロシア革命の余韻（よいん）の中で、大正一一年に日本共産党が結党された。それ以降、共産党の歴史は、当局による弾圧と再建の繰り返しだった。いうまでもなく、共産党は、非合法だった。昭和三年の「三・一五事件」、四年の「四・一六事件」では、二千六百余名の検挙者を出す。おもな指導者が検挙され、指導部が次々と交代を余儀なくされた。第一次共産党以降の指導部はいずれも二年ともっていない。昭和六年一月に再建されたのが「非常

▶銀行襲撃を指揮した大塚有章。八年一月逮捕、一七年満期出獄。

◀河上肇。昭和7年地下活動に入り、共産党入党。特高警察の最大の標的となっていた。昭和8年1月逮捕。

時共産党」（風間丈吉委員長、「新生共産党」とも言う）だった。「非常時共産党」は、一年一〇ヵ月活動し、戦前の共産党の中で最も〝長命〟だった。また、機関紙「赤旗」も活版化、部数も七〇〇〇部近くに達するなど、戦前の党史上、最も党勢がさかんだった。そして「M」は、その発足時点からスパイとして指導部に名をつらねていた、と考えられている。

「この時の特高は、すでに大物を捕まえていたために、一種の余裕があった。そして組織中枢にスパイをもぐらせ、党員だけでなく、潜在的な同調者まで浮かび上がらせて一網打尽にするという方針でした」と語るのは、『スパイM』などの著書がある小林峻一氏である。

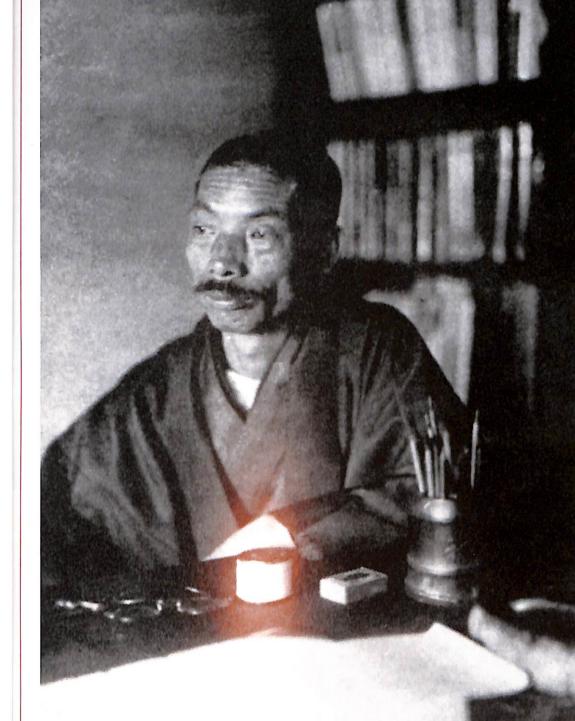
また、当時の共産党は、深刻な財政危機にあった。もともと草創期の共産党の活動資金は、ソ連共産党の掌握するコミンテルンに依存していた。ところがその資金ルートも、「M」の策略でとだえている。しかも、秘密活版印刷工場の建設費、折から出された「三二年テーゼ」（日本の革命の基本戦略を示した方針。いわゆる二段階革命論）を党内に徹底するための全国代表者会議の開催費、弾圧に対抗するための武器（主としてピストル）購入費など資金需要が膨大になっていた。

ここで、当時の共産党の組織・財政担当の「M」の誘導で、党内も「非常手段を使っても資金を調達すべきだ」という意見に固まっていく。もちろん「M」がスパイとはつゆ知らず、共産党員たちが極端な方法に走ったのである。

銀行強盗から二日後、警視庁の会議で、毛利は「事件は共産党がやったと思われる」と発言した。そして、実行犯らは、事件四日後から芋蔓式に逮捕される。

事件からほぼ三週間後の一〇月二九日、全国代表者会議出席のため、党員が、静岡県熱海温泉の人目につかない別荘に集結していた。会場の手配をしたのは「M」。一方、「M」と通じた毛利課長指揮下の特高警察は周到な準備を行い、三〇日未明、会場を襲って幹部党員一一名を一網打尽にしている。いわゆる「熱海事件」である。さらに同じ日、風間委員長、中央委員だった岩田義道、紺野与次郎らも含め、全国で一五〇〇名以上が検挙され、「非常時共産党」は潰滅した。

「M」はこれを境に行方不明となる。後に、東京・浅草の待合いに半年ほど入りびたりになっていたことや、カフェーのホステスに開店資金を貢ぐなどしていたこと、満州（中国東北部）に渡って事業を手がけたことなどが判明している。「M」は、人目をしのび、あちこちを転々とし、昭和四〇年九月、北海道のとある街で脳軟化症により六二年の生涯を閉じた。

▲毛利基警視庁特高課長。後に埼玉県などの警察部長を歴任。「現代」昭和8年12月号より。

女たちの肖像

〝ふたりの恋は清かった〟 美貌の令嬢・湯山八重子が「坂田山心中」を選ぶまで

稲葉真弓

昭和初年代は「心中ブーム」の時代と言われているが、そのブームに〝先鞭〟をつけたのがこの年の五月九日、神奈川県・大磯で起きた「坂田山心中（別名・大磯心中）」だった。死んだのは、男爵家の血筋にあたる慶応大学の学生、調所五郎（二四）と、静岡県富岡に住む富豪の娘、湯山八重子（二二）。恋愛関係にあった二人は、八重子の方に縁談が持ちあがったことから窮地に追いこまれ、死を選んだものだった。

この心中が世間の話題になったのは、五郎も八重子も良家の令息・令嬢であり、美男・美女だったこと、八重子が最後まで〝処女〟だったと伝えられたこと、二人の死の枕辺に北原白秋編『赤い鳥童謡集』と羽仁もと子の『みどり子の心』の二冊があったこと、さらに同夜、彼女の遺骸がその美貌にひかれた火葬場の作業員によって盗まれた（一一日、大磯の海岸の浜辺から、一糸まとわぬ姿で発見された）ことなどがあげられる。これら諸状況が重なり、「世にも美しい心中」として人々のロマンチシズムをかきたてたのだった。

▲昭和7年5月11日付「朝日新聞」に掲載された、八重子と五郎の写真。

湯山八重子は明治四四年、父親が村会議員などをつとめる名家に一一人兄妹の三女として生まれ、その美貌から〝富岡小町〟と呼ばれていた。五郎との出会いは、彼女が東京・芝白金の香蘭女学校の寄宿舎から頌栄高等女学校にかようようになってからである。香蘭女学校はキリスト教系の学校で、八重子は自然に教会にかようようになり、洗礼を受けた。五郎もまた教会に出入りしており、北原白秋の詩集をきっかけにして二人は言葉を交わすようになった。

しかし八重子は女学校を卒業すると父親の命令で帰郷、しかも牧師との縁談が持ちあがり、断りきれないところまで進展していた。五郎の方も異母兄弟の中で育つという複雑な家庭環境に加え、まだ学生の身。結婚はかなわぬと将来を悲観し、ついに二人は坂田山に上り昇汞水を飲み、情死したのである。

事件後まもなく、五所平之助監督が二人をモデルにした映画「天国に結ぶ恋」を制作し大ヒット、主題歌の歌詞の一部、〝ふたりの恋は清かった〟というフレーズが人々の感涙をしぼった。坂田山はたちまち自殺のメッカとなり、三年にわたって約二〇〇件の自殺、自殺未遂事件が発生、町ぐるみで対策に追われたという。

勝者・敗者

一〇代のライバルを圧倒して オリンピック二連覇の偉業！ 鶴田義行の〝ベテランの泳ぎ〟

阿部珠樹

「水泳日本」と言えば、古橋広之進や橋爪四郎が世界記録を連発した第二次大戦後の黄金期をさすと考える人が多いが、実際に日本の水泳選手が、国際舞台で最も華やかに活躍し、脚光をあびたのは、この年八月のロサンゼルス・オリンピックだった。

日本水泳陣は、この大会で、金メダル五、銀メダル五、銅メダル二という圧倒的な成績をあげ、世界を驚かせた。

しかも、その好成績の主力となったのは、一〇〇メートル自由形優勝の宮崎康二（一五）、一五〇〇メートル自由形優勝の北村久寿雄（一四）、二〇〇メートル平泳ぎ銀メダルの小池礼三（一六）といった一〇代の少年選手だった。戦後顕著になる水泳選手の低年齢化の先駆けとなったのである。

こうした一〇代の選手たちのよき相談相手となり、水泳陣をまとめて活躍したのが二〇〇メートル平泳ぎで優勝した鶴田義行だった。

鶴田はこの年の一〇月には二九歳になる大ベテランで、前回のアムステルダム大会でも同じ種目に優勝していた。

大会が始まると、同じ種目に出場する若い小池の勢いがめざましく、鶴田は決勝には残ったものの、連覇はむずかしいと思われていた。

しかし、いざレースが始まると、鶴田の老獪な泳ぎは他を圧していた。五〇メートルを二番手でターンした鶴田は、一〇〇メートルではいったん息を入れるように控え、三番手につける。そして徐々に差を詰めていき、一五〇のターンではついに先頭に。最後の五〇は、小池が必死に追いすがるが、うまく力を配分した鶴田の優位は変わらず、そのまま先頭でゴールする。

「予選でレコードを破った小池君が、今日、私に遅れたのは、まあ、おじいさんに花を持たせてくれたわけですね」

レースの後、優勝の感想を聞かれ、三〇歳間近の大ベテランは、余裕たっぷりに振り返った。水泳でオリンピック連覇は、日本人では鶴田だけがなしえている大記録である。

▶鶴田、ゴールの瞬間。記録は二分四五秒四。二位小池に一秒二差の圧勝だった。昭和四三年に「水泳殿堂」入り。

ニュース・ファイル

1932

フォト＋日録で再現する366日

関東軍の強引な中国侵略によって、日本はついに傀儡政権の「満州国」を独立させた。国内では右翼や将校によるテロが頻発し、首相暗殺という未曾有の「五・一五事件」が起こる。そして肉弾三勇士のエピソードが示すように、戦意高揚のキャンペーンに拍車がかかった。

◀南部忠平、金メダル・ジャンプ（8月4日）ロス五輪三段跳びで15メートル72の世界新記録を出して優勝。走り幅跳びでも銅メダルを獲得した。前年には走り幅跳びの世界記録を塗り替えていた。

朝日新聞社

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

◀「上海事変」勃発（1月28日）日本人僧侶の殺傷事件などに端を発し、海軍陸戦隊が中国第19路軍と衝突。「満州国」樹立から諸外国の目をそらす陽動作戦だったが、中国軍の抵抗に苦戦し5月に停戦。

▼「桜田門事件」起こる（1月8日）警視庁前で天皇の行列に手榴弾が投げられたが、天皇は無事。犯人・李奉昌は朝鮮独立運動の高揚のため、天皇暗殺をねらった。

共同通信社

▲「愛国号」命名式（1月10日）東京・代々木練兵場の7万余の観衆を前に荒木貞夫陸相が国民献金で造った陸軍機を「愛国第1号・第2号」と発表。これが飛行機献納運動の端緒となった。

▶早大、ラグビー国際戦（1月20日）東京の神宮外苑競技場でカナダチームと対戦、13対29で敗れた。カナダチームは16日に来日、その後日本の大学チームと全7試合を行い、5勝2敗の好成績をおさめた。

▼天龍ら相撲協会脱退（1月9日）相撲界の改革を掲げ、6日から料亭・春秋園に籠城していた西方力士32人が大日本新興力士団を結成した。写真中央が天龍。

三島市役所提供

▶「ノーエ節」発売（1月10日）赤坂小梅が「富士の白雪ゃ」と歌ってはやった静岡県三島の民謡。平井源太郎が江戸末期の農兵の歌を脚色、日本コロムビアがレコード化。

共同通信社

昭和7年 1月

1（金）●蔣介石、汪兆銘と妥協し新国民政府を樹立。●「プロレタリア文学」創刊。

2（土）●「大阪毎日」記者ら五人、徒歩で錦州入りをくわだて行方不明。

3（日）●関東軍、錦州を占拠。

4（月）●インド国民会議派非合法化され、ガンジー逮捕。獄中で「死にいたる断食」を開始。

5（火）●横浜で上海帰りの印刷工に天然痘の診断。

6（水）●天龍ら西方力士三二人、相撲協会に角界改革を要求（9日脱退し、大日本新興力士団結成）。

7（木）●米国務長官、日本の満州（中国東北部）侵略不承認と声明（スティムソン・ドクトリン）。

8（金）●朝鮮人・李奉昌、警視庁前（桜田門外）で天皇の行列に手榴弾を投げる（桜田門事件）。

9（土）●栃木県阿久津村で全農組合員ら百数十人が小作争議を妨害する右翼を襲撃、一五人を殺傷。

10（日）●静岡県三島の新民謡レコード「ノーエ節」発売。●献納機「愛国第一号」「愛国第二号」の命名式。

11（月）●閣議、「大逆事件」の絶滅対策を協議。

12（火）●弁士三〇〇人がトーキーに対抗して労組結成。

13（水）●上海の三工場で中国人労働者六〇〇〇人が手当廃止にスト、日本人経営者は工場を閉鎖。

14（木）●片岡千恵蔵主演「国士無双」封切。

15（金）●日貨排斥の影響で対中輸出三六％減と大蔵省。

16（土）●ハルビン特務機関長に土肥原賢二任命が決定。

17（日）●安岡正篤ら、国維会を結成。新官僚の拠点に。

18（月）●上海で日本山妙法寺の僧ら五人、陸軍特務機関に教唆された中国人に襲撃され一人死亡。

19（火）●文部省体育審、「健全な野球」などの答申決定。

20（水）●社会民衆党大会、三反主義（反資本・反共・反ファッショ）を採択。

21（木）●国際連盟中国調査委の委員長にリットン選出。

22（金）●青森歩兵第五連隊、八甲田山雪中行軍に出発。

23（土）●長谷川警視総監、民政党幹部の醜聞を公表（選挙向けと問題化し、29日辞職）。

24（日）●朝鮮・済州島の海女五百余人が駐在所襲撃。

25（月）●民政党幹部、選挙応援演説をトーキーで撮影。

26（火）●連盟理事会、日中の退席求め満州対策協議。

27（水）●主食は米麦混食が五八％と内務省農村調査。

28（木）●「上海事変」勃発。海軍、中国第一九路軍と交戦。

29（金）●沖ツ海ら東方力士一九人、革新力士団を結成。

30（土）●中国国民政府、抗日のため洛陽遷都を宣言。

31（日）●井上日召・古賀清志海軍中尉ら、政財界要人の「一人一殺」暗殺計画を決定。

▶米レークプラシッドで第3回冬季五輪(2月4日)写真は2連覇を達成したフィギュア・スケートの女王ソニア・ヘニー(ノルウェー)の華麗でユニークな演技。日本からは20人が参加した。

ROGER-VIOLLET/ユニフォト・プレス

◀「銀座の柳」復活(2月16日)煉瓦街だった頃の関東大震災前の風情を再現。写真はこの日に行われた植樹祭。翌月、中山晋平作曲・西条八十作詞、四家文子が歌う「銀座の柳」がレコード発売された。

▲李承晩、反日放送(2月23日)大韓民国臨時政府国務総理・李承晩が、亡命先のニューヨークで「日本の満州占領の結果について」と題し、日本の侵略を非難するラジオ講演を行った。両側は護衛の刑事。

共同通信社

毎日新聞社

▲ジュネーブ軍縮会議開催(2月2日)国際連盟非加盟の米国を含む61ヵ国代表が参加、軍縮への道がさぐられたが合意に達せず、翌年、日独は連盟を脱退。

▼軍国美談「肉弾三勇士」(2月22日)上海の廟巷鎮攻撃で鉄条網を爆破しようとした22歳の3人の兵士(写真)が自爆死。陸軍は「軍神」と顕彰し、戦意高揚をあおる美談として定着した。

▲江下武二一等兵　▲北川丞一等兵　▲作江伊之助一等兵

毎日新聞社

◀リットン調査団来日(2月29日)国際連盟が「満州事変」に関する現地調査のため派遣。右から3人目がリットン団長。10月に「満州事変」は日本の侵略、「満州国」独立は認めないとする報告書を公表。

野沢正提供

▲日本唯一の飛行船、徹夜飛行(3月16日)霞ケ浦海軍航空隊の15式軟式飛行船が、関東上空をめぐり12時間6分の滞空時間を記録して土浦に帰着。飛行船は飛行機の発達とともに衰退した。

▶地下鉄初のスト(3月20日)従業員156人が全協の指導のもと、待遇改善と出征者への給与支給などを要求し、上野駅の軌道入り口と車庫前の電車に籠城。「もぐら電車」と呼ばれた。

毎日新聞社

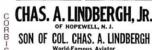
◀国産初の大型乗用車完成(3月3日)名古屋市長の構想をもとに、日本車両など4社が2年がかりで開発。7人乗り、85馬力で熱田神宮にちなんで「アツタ号」と命名された。この日、名古屋市内を試運転。

◀玉ノ井バラバラ事件(3月7日)東京・向島の私娼街の溝から男性の切断死体が発見され、猟奇事件と騒がれた。7ヵ月後、被害者と同居の3兄弟が逮捕され、暴力に悩んでの犯行と判明。

▶第1回婦選デー(2月13日)前年、貴族院ではばまれた婦人公民権の獲得をはかるため、婦人団体が一斉に活動。東京では2万枚のビラがまかれた。右手前・市川房枝、筆を持つ山高しげり。

毎日新聞社

▼リンドバーグの愛児誘拐(3月1日)史上初の大西洋横断をはたした英雄への犯行に全米が激怒。捜索協力を求めるポスター(写真)も実らず、5月、死体で発見。

WANTED
INFORMATION AS TO THE
WHEREABOUTS OF

CHAS. A. LINDBERGH, Jr.
OF HOPEWELL, N. J.
SON OF COL. CHAS. A. LINDBERGH
World-Famous Aviator

This child was kidnaped from his home in Hopewell, N. J., between 8 and 10 p. m. on Tuesday, March 1, 1932.

DESCRIPTION:

Age, 20 months　Hair, blond, curly
Weight, 27 to 30 lbs.　Eyes, dark blue
Height, 29 inches　Complexion, light
Deep dimple in center of chin
Dressed in one-piece coverall night suit

ADDRESS ALL COMMUNICATIONS TO
COL. H. N. SCHWARZKOPF, TRENTON, N. J., or
COL. CHAS. A. LINDBERGH, HOPEWELL, N. J.

ALL COMMUNICATIONS WILL BE TREATED IN CONFIDENCE

March 11, 1932　COL. H. NORMAN SCHWARZKOPF
Supt. New Jersey State Police, Trenton, N. J.

CORBIS・BETTMANN/PPS

昭和7年2月

1(月)●米海兵隊、マニラから上海に出兵。
2(火)●国際連盟主催のジュネーブ軍縮会議開催。
3(水)●埼玉県西吉見村で全農組合発会を妨害された農民二〇〇人が熊谷署を襲撃。一八人検束。
4(木)●嵐寛寿郎主演「抱寝の長脇差」封切。
●京都のマキノ撮影所で火災。一二〇〇坪全焼。
5(金)●直木三十五・久米正雄ら、五日会創立。軍部と「ファッショ文学の実現強化」で会合。
●関東軍、ハルビン占領し、全満州をほぼ占領。
6(土)●卸売物価が前月比五・六%の暴騰、と新聞に。
7(日)●馬占山、日本軍に帰順し黒竜江省長に就任。
8(月)●共産党中央委員の佐野学・鍋山貞親ら三被告、獄中から総選挙立候補を検事局へ通告。
9(火)●東京・本郷で前蔵相・井上準之助、「血盟団」の小沼正に射殺される(血盟団事件)。
10(水)●陸士でも「赤化運動」、四人が退校と新聞に。
11(木)●上海からの引揚げ邦人が一万人突破。
12(金)●東京市内小学校の児童の寄生虫保有率は男子二二%、女子二五%、一位は回虫、と新聞に。
13(土)●戒厳令下の上海蘇州河対岸で映画館など再開。
14(日)●第九師団、上海に上陸開始(16日終了)。
15(月)●小学生の洋服普及目的に「子服材料会」創設。
16(火)●国際連盟理事会(一二ヵ国)、上海での日本の戦闘行為中止を日本に勧告。
●ラジオ聴取契約数が一〇〇万を突破。
17(水)●奉天での満蒙新国家建設会議、臨時政権として東北行政委員会を設立。
18(木)●日本電報通信社(現・電通)、満州支社を設立。
19(金)●宣統廃帝・溥儀を満蒙新国家の元首に決定との記事が解禁(3月5日溥儀、受諾)。
20(土)●東京女子大生と日大生、極左運動容疑で検挙。
21(日)●朴春琴、朝鮮人として初めて衆院議員に当選。
22(月)●第一二師団の三工兵、上海の廟巷鎮攻撃で破壊筒により爆死(「肉弾三勇士」)。
23(火)●陸軍、上海派遣軍編制と二個師団増派を決定。
24(水)●文部省、小学校の対外野球試合抑制を規定。
25(木)●ブレヒト原作の独映画「三文オペラ」封切。
26(金)●生保協会、出征軍属に割増料徴収せずと決定。
27(土)●日本航空の飛行艇、吹雪で八幡市外に墜落。
●友田恭助ら築地座を結成し第一回公演。
28(日)●「朝日」「毎日」両新聞社、「肉弾三勇士」の歌を公募(「毎日新聞」は与謝野鉄幹が入選)。
29(月)●英議会、保護関税法案を可決。自由貿易廃止。
●国連リットン調査団、満州調査の途上、来日。

昭和7年3月

1(火)●「満州国」建国宣言を発表。元号は大同。
●米リンドバーグの息子誘拐(5月死体で発見)。
2(水)●日本軍、大場鎮を占拠。一九路軍、撤退開始。
3(木)●国産初の大型乗用車「アッタ号」試運転。
4(金)●大阪市小学校長会、三〇万学童に鉛筆を買わせ、その利益で献納機購入と決定。
●警視庁、日銀行員の左翼三一人を一斉検挙。
5(土)●三井合名理事長・団琢磨、血盟団員により射殺。
6(日)●選挙違反で収監中の民政党代議士・中村継男の運動員、市ケ谷刑務所独房内で自殺。
7(月)●東京府下寺島町で男性のバラバラ死体発見(玉ノ井バラバラ殺人事件)。
8(火)●戦争映画ブームで、内務省検閲量が過去最高。
●テロ続発で防弾チョッキに注文殺到と新聞に。
9(水)●「満州国」建国式典行われ、溥儀が執政就任。
10(木)●商工省など、標準形式自動車五種を試作。
11(金)●血盟団の指導者・井上日召、自首。
12(土)●閣議、満蒙問題処理方針要綱を決定。
13(日)●女優・水谷八重子、国民文芸賞を受賞。
14(月)●米、「満州国」建国通告を黙殺し公表拒否。
●上海の第一一師団などに帰還命令。
15(火)●横浜市電争議の敗北で、この日予定の東京・大阪・神戸など全市電ゼネスト中止。
16(水)●「満州国」政府、食糧用雑穀の対ソ輸出を禁止。
17(木)●東京での知識階級失業者救済事業、決定。
18(金)●大阪で国防婦人会、発会。
19(土)●新興力士団と革新力士団が旗揚げ興行開催。
20(日)●東京地下鉄争議団、占拠車両に籠城。
21(月)●東北帝大で騒音測定する雑音計発明と新聞に。
22(火)●日本無産者消費組合連盟、結成。
23(水)●「満州事変」関係予算成立。七年度中の合計二億七八二二万円。歳出の一四・三%。
24(木)●コップ(日本プロレタリア文化連盟)への弾圧開始(蔵原惟人・中野重治ら四〇〇人検挙へ)。
25(金)●浅間山が噴火。東京山の手一帯に灰が降下。
26(土)●千田是也ら東京演劇集団がブレヒトで旗揚げ。
●米共産党、満州撤兵要求し日本大使館にデモ。
27(日)●四家文子歌「銀座の柳」発売。
28(月)●中国軍の捕虜だった空閑昇少佐、拳銃自殺。
29(火)●東大卒業試験でカンニングの一一人、退学。
●滋賀県田上村で京大の上治寅治郎が日本で初めて最軽金属ベリリウム鉱石発見、と新聞に。
30(水)●静岡県三島町、事変戦傷者子弟の授業料免除。
31(木)●海軍省、軍艦一・駆逐艦一三など廃棄と発表

▲初の日本ダービーでワカタカ優勝(4月24日)英国ダービーを範とした4歳馬、2400メートルのレースが目黒競馬場で始まった。この一戦をJOAK(現・NHK)が初めて実況中継。

日本中央競馬会提供

©Walt Disney

▼ディズニー、初のカラーアニメ公開(4月)「シリー・シンフォニー」シリーズの「花と木」編。森の草と木が展開するファンタジーで、最初のアカデミー賞を受賞。1928年のミッキーマウスに続くヒットとなった。1934年にはドナルドダックもデビューする。

◀「天才バイオリン少女」デビュー(4月9日)3歳で練習を始め、小野アンナ、ソ連のモギレフスキーにみいだされた12歳の諏訪根自子が、東京の日本青年館で初演奏会を開いた。

朝日新聞社

▼新上野駅開業(4月2日)関東大震災で被害を受け再建、この日落成式が行われ、東京の北玄関にふさわしいクリーム色のモダンなビルになった。

共同通信社

▼反トーキー・スト起こる(4月28日)この月8日、松竹系映画館が音声つき映画にともなう弁士・楽士解雇を打ち出したことから全国で争議が頻発。写真は反対を叫ぶ日活系の従業員大会。

毎日新聞社

Popperfoto/ユニフォト・プレス

▲ヒンデンブルク、独大統領選に再選(4月10日)3月の選挙ではトップながら、過半数に達せず再選挙。今度は53パーセントの得票でヒトラーと共産党のテールマンを破ったが、ナチスの選挙運動は市民の人気を集めた。

昭和7年4月

1(金)●京都市の四条通りに市営トロリーバスが開業。●鉄道弘済会、駅構内の売店営業を開始。●ラジオ聴取料が月額一円から二五銭値下げ。

2(土)●上野駅が新築され落成式。地下に商店街。

3(日)●東京鉄道局の線路工手などの募集に七〇〇〇人が応募し、小学校を借りて採用試験実施。

4(月)●日本アルミニューム製造所、世界初のアルマイト製品の生産を開始。

5(火)●下中弥三郎ら、日本国家社会主義学盟を結成。

6(水)●岐阜県河合村で山腹崩落。一一人生き埋め。

7(木)●大日本アマチュア・レスリング協会創立。●「満州国」初の国勢調査。人口三四〇〇万人。

8(金)●東京・浅草の二映画館で弁士一〇人解雇(18日松竹系映画館で解雇反対スト)。

9(土)●一二歳の諏訪根自子、バイオリン初独奏会。

10(日)●東京・喜多能楽堂で学生による「早慶能楽戦」。●独大統領にヒンデンブルク(一九四〇万票)再選。ヒトラーは一三四〇万票。

11(月)●米穀販売組合、五月から麦の販売統制を決定。

12(火)●旭川市のアイヌ民族代表、開墾地削減反対・「旧土人保護法」撤廃を内務・大蔵両省に陳情。

13(水)●独政府、ナチスのSAとSSの解散を強行。

14(木)●明治製糖社長・相馬半治ら拘引(明糖事件)。

15(金)●社会民衆党分裂。国家社会主義の赤松派脱退。

16(土)●宮崎県小林町で町の三分の一、三百余戸全焼。

17(日)●東本願寺宗議会、大谷光演の法主復帰を否決。

18(月)●東京地下鉄道会社で左翼二十余人を一斉検挙。

19(火)●東京の陸軍火薬倉庫が爆発。五〇〇戸に被害。●五大電力会社のカルテル、電力連盟設立。

20(水)●花嫁学校「お茶の水家庭寮」が開寮。

21(木)●文部省、不正入試で東京の私立医大など臨検。

22(金)●関東軍二個師団、反吉林軍鎮圧作戦を開始。

23(土)●警視庁、初の婦人警官採用。家出人保護担当。

24(日)●第一回日本ダービー(東京優駿大競走)開催。

25(月)●靖国神社臨時大祭開催。五三一人合祀。

26(火)●瑞金の中華ソビエト共和国(中国共産党)臨時政府、対日宣戦布告。

27(水)●ルネ・クレール監督「自由を我等に」封切。

28(木)●国鉄大船渡線橋梁工事の朝鮮人労働者ら、スト突入(5月4日暴力団の襲撃で三人死亡)。

29(金)●韓人愛国団員・尹奉吉、天長節祝賀会場で爆弾投擲。白川義則ら重傷(上海爆弾事件)。

30(土)●矢萩丹治、マラソン五輪予選で二時間三一分三一秒の世界記録を樹立。

証言・あの日この日

葉山嘉樹(37)

2月5日(金)　〈快晴。北風強く暖し。上海では盛んに暴れまくり、満州では滅茶をやってゐる。そして内地では、失業者、東北饉民、ルンペン、労働者皆飢ゑてゐる。その時代的苦悩は同時に自分自身の苦悶である〉(葉山嘉樹『葉山嘉樹日記』)

『海に生くる人々』で名声を獲得した葉山は、投獄を何回も経験した筋金入りのプロレタリア作家だった。当時共産党は非合法政党であったが、活動は活発で、この頃の「赤旗」の発行部数は7000部、活動家の数は約4万人と言われた。しかし「満州事変」以後の厳しい弾圧で転向者が続出、共産党もプロレタリア文学も、次第に衰退へと向かう。葉山も、いち早く弱気になり、この年の4月には夜逃げ同然に東京を去った。後に開拓移民として満州に渡るが、病没する。　(山崎行太郎)

影山光洋

◀パーマネント登場(5月)アメリカで修業したメイ牛山(牛山マサ子)が東京銀座7丁目に「ハリウッド美容室」を開店。パーマネント・ウェーブが女優や上流婦人に受け、昭和9年頃から広く普及した。

▼「朝霞コース」オープン(5月1日)東京ゴルフ倶楽部が駒沢コースの移転先としていた埼玉県膝折村(現・朝霞市)のゴルフ場が完成、その名誉会長・朝香宮鳩彦王にちなんで膝折村も朝霞町となった。

毎日新聞社

▲上海爆弾事件起こる(4月29日)天長節祝賀式に爆弾が投げこまれ、白川義則派遣軍司令官、重光葵駐華公使らが重傷を負った。犯人・尹奉吉は朝鮮独立運動の低迷から爆弾テロに走った。

隅田光子提供

影山光洋

▶「挙国一致」斎藤実内閣成立(5月26日)「五・一五事件」後、10日間の政権空白を経て、海軍大将の首班が生まれた。政党内閣が終焉、政府は軍部の圧力に屈し、国際的な孤立化への道を歩む。

◀チャップリン来日(5月14日)翌15日、犬養首相の息子・健と相撲見物中に首相暗殺を知り官邸に弔問。行く先々で大歓迎を受けた6月2日までの滞日中の希有な体験となる。写真は芸者歌手・市丸と。

昭和7年5月

1(日)●日本放送協会、第一回全国ラジオ調査実施。好きな番組の一位は浪花節で五七%。●木村伊兵衛ら写真雑誌「光画」創刊。

2(月)●「満蒙学校」開校。満州行き希望者の人材育成。●東京府、女学校の女性教員に袴着用を通牒。

3(火)●日本空輸、福岡—羽田間の夜間試験飛行成功。

4(水)●輸入農産物従量税を一律三五%引き上げ決定。

5(木)●上海停戦協定調印。日中両軍が撤退。

6(金)●大日本連合婦人会、初の女性用タバコ「麗」の発売中止を請願(10日発売。翌年販売中止)。

7(土)●全労ファッショ派、国家社会主義新党結成へ。

8(日)●東京中央放送局のアナウンサー試験に女性三七人受験(村岡花子・松沢智恵を採用)。

9(月)●神奈川県大磯町の坂田山で慶大生と恋人の心中死体発見(「天国に結ぶ恋」)。

10(火)●「プロキノ」(プロレタリア映画同盟)創刊。●早大野球部、興行化した学生スポーツの浄化訴え六大学リーグを脱退(9月7日復帰)。

11(水)●日活の反トーキー争議、警視庁の調停で妥協。

12(木)●文部省、検定不合格教科書の使用に厳重警告。

13(金)●堺市で祝賀飛行の学童献納機二機が接触炎上。

14(土)●喜劇王チャップリン来日(~6月2日)。

15(日)●「五・一五事件」。青年将校ら犬養毅首相射殺。

16(月)●「五・一五事件」で株式・商品市場休会。円暴落。

17(火)●「福岡日日新聞」、社説で「ファッショ運動に根拠なし」と「五・一五事件」を批判。

18(水)●文部省、夜間中学卒業者にも専門学校入学無試験検定の特典付与と通牒。

19(木)●海軍、館山—父島間の日帰り往復飛行に成功。

20(金)●大塚金之助・野呂栄太郎ら『日本資本主義発達史講座』刊行開始。

21(土)●江戸三座のひとつ、市村座が全焼。

22(日)●声楽家・三浦環、満州・奉天で慰問独唱会。

23(月)●高野山一乗院で火災。本堂など一三棟全焼。

24(火)●東京市の銭湯値下げ計画に組合側が反対。

25(水)●拓大学生六〇〇人、理事辞任求め学内に籠城。

26(木)●斎藤実内閣成立。「挙国一致」を標榜。

27(金)●北海道余市町で大火。三〇〇戸を全焼。

28(土)●「満州」「上海」事変の戦死一二二四人と陸軍省。

29(日)●赤松克麿ら、日本国家社会党結党。下中弥三郎らは新日本国民同盟を結成。

30(月)●「東京朝日新聞」、「彼女はどうして左翼運動に入ったか—ある女大生の獄中手記」を掲載。

31(火)●上海派遣軍の撤退完了、海軍二五〇〇は残留。

▲ジーン・サラゼン、2度目の全米オープン優勝(6月25日)10年前、20歳で初優勝した天才ゴルファーは、後に数少ない世界4大タイトル獲得者として名を残す。 朝日新聞社

朝日新聞社

▲原智恵子、国立パリ音楽院コンクールで首席入賞(6月29日)昭和3年に渡仏しラザール・レビに師事、ファンタスティックな表現が賞賛され、18歳で国際的ピアニストとして認められた。

▶光明小学校開校(6月1日)東京の麻布に日本初の公立肢体不自由児施設(結城捨次郎校長)ができ、男子22人、女子13人が入学した。写真は職員・学童一緒の七夕祭。 東京都立光明養護学校提供

▲「鬼の特高」、部へ昇格(6月29日)警視庁官房から内務省統括に。明治44年設立当初の左翼活動取締りだけでなく、一般の社会運動まで弾圧するようになる。 毎日新聞社

▶大阪府が全国初の煤煙防止規則制定(6月3日)1万本を超える煙突が空に伸び、視界の悪さではロンドンをしのぐとまで言われていた。しかし、燃焼方法のみを規制したこと、工場の新増設により、効果はあがらなかった。 三木雅之介

▼銀座に時計塔(6月12日)4丁目交差点に服部時計店(現・和光)が新装開店。地上7階、地下2階の鉄筋コンクリート造りで、屋上には大正10年以来の時計塔が復活。銀座名物となった。

服部セイコー提供

昭和7年6月

- 1(水)●ラジオ番組「コドモの新聞」放送開始。●東京に日本初の肢体不自由児の光明小開校。
- 2(木)●日本楽器、国産初のパイプオルガンを製作。
- 3(金)●大阪府、日本初の煤煙防止規則を制定。●小津安二郎監督「生れては見たけれど」封切。
- 4(土)●豪雨で東京の私鉄不通、七三五九戸が浸水。
- 5(日)●閣議、糸価安定に滞貨一〇万俵買い上げ決定。
- 6(月)●横須賀市の海軍工廠で溶鉱炉爆発。九人死傷。
- 7(火)●鉄道省が計画している外国客誘致のための闘犬許可に動物愛護会が反対。
- 8(水)●理研の辻村みちよ、女性で初の農学博士に。
- 9(木)●揮発油輸送船が横浜港で爆発炎上。五人負傷。
- 10(金)●八幡製鉄所、「満州国」から橋梁用鋼材一五〇〇トンの大量注文を受ける。●蒋介石、廬山会議開催(対日妥協方針決定。対共産軍軍事行動協議。16日掃共作戦開始)。
- 11(土)●東京・浅草の「カジノ・フォーリー」閉館決定。●内務省、農村救済策として三億五〇〇〇万円の土木事業計画の立案に着手。
- 12(日)●東京・銀座に服部時計店開店。時計塔が復活。
- 13(月)●陸軍省が子どもの愛国心高揚策実施と新聞に。
- 14(火)●コレラ患者続出で、東京市衛生試験所が五万人分のコレラ・ワクチン製造を開始。
- 15(水)●台湾だけでラジオの広告放送実施(~12月)。
- 16(木)●武田麟太郎、軍隊への左翼宣伝容疑で検挙。
- 17(金)●溝上游亀、女性で初の日本美術院同人に推挙。
- 18(土)●歳入補填公債法公布。赤字公債の発行開始。
- 19(日)●プロレタリア文化連盟拡大中央協議会で、前日の秋田雨雀らの検挙に続き一九八人検束。
- 20(月)●東京中央放送局、琵琶・尺八などの新人募集。
- 21(火)●インドに「チェリー」二〇〇万本輸出と新聞に。
- 22(水)●張学良ら北平会議、挙国的排日貨断行を決定。
- 23(木)●東大の三島徳七、MK磁石鋼の特許を取得。
- 24(金)●シャム(タイ)人民党、反絶対王制クーデター。
- 25(土)●神奈川県茅ケ崎町で竜巻。五十余戸破壊。
- 26(日)●名古屋医大の榊原暉意、血液検査による淋病診断の研究結果を皮膚科学会で発表。
- 27(月)●福岡県の炭鉱労働者、撫順炭輸入防止を陳情。
- 28(火)●青山学院高等部英文科の六〇人が外国人教師をボイコットし、全員停学処分。
- 29(水)●警視庁、特高課拡充し特別高等警察部を新設。●ピアニスト原智恵子、在学中の国立パリ音楽院コンクールで首席入賞。
- 30(木)●斎藤首相、ローマ法王から一等勲章を受ける。

「現場」を歩く 日本橋

大惨事「白木屋火災」が問い続ける高層建築への消防対策

山本徹美

▲現在の東急百貨店日本橋店。白木屋の面影はないが、付近には高島屋、三越など老舗が軒をつらねる。 但馬一憲

昭和七年一二月一六日、東京・日本橋にある白木屋百貨店は定刻の午前九時に開店した。歳末とあって、数多くの客が店内に押しかけたが、それからものの三〇分もたたないうち、建物は猛火に包まれた。火元は四階玩具売り場であった。

「火の手は、たちまち五階に及び、手の下しようもなく、逃げまどう客、店員等の阿鼻叫喚のうちに、油を布いた床板や、リノリウムは、用捨なく火を呼び、火勢は西側から南側へと延び、忽ち五階家具、美術品、六階特売場、七階食堂、ホール、八階店員食堂へと漸次延焼」(『白木屋百貨店三百年史』)

出火時、店内には四階だけで店員と臨時店員が四〇〇人おり、買い物客と合計約二〇〇〇人がとり残されていた。駆けつけたポンプ消防車は二九台。梯子消防車三台、水管自動車二台。ところが、高層建築に対応した消防設備が整っていなかったためポンプの水は四階以上へは到達せず、梯子も四階に届くのがやっと。その間、六階、七階から帯などをつなぎ合わせた紐を使って降下中、力尽き落下したり、救助を待ちきれず飛び降りるものがあった。屋上には数百人が避難。そこへ陸軍の飛行機がロープを投下、これを屋内に進入した消防士が罹災者の身体にくくりつけるなどして救助した。午後零時半、鎮火。

この火事による重軽傷者は約一三〇人。死者は一四人で、うち白木屋関係者が一三人。すべて墜落死だった。

火災当時の面影はなく

わが国初の高層建築火災に直面した内務省警保局はただちに対策を検討、昭和一一年に省令を発令。大規模小売店は二方面において道路に接すること、スプリンクラーを設置するなどの規則を設けた。

共同通信社

▲12月16日、白木屋火災の惨状。和服の裾の乱れを気にして墜死した女性がいたため、洋装化が叫ばれた。

白木屋はその後、三三年に東京急行グループの東横百貨店と合併、四二年、東急百貨店日本橋店と改称して現在にいたっている。その店舗を訪ねた。すでに建物は改築され火災当時の面影はまったくなく、屋上に「白木観音」なるお堂が建っていて、名残をとどめる程度。火事の被災者に関係した慰霊碑の類はない。

「合併して四〇年近くたち、元白木屋社員は一人もいませんし、慰霊の行事なども行っていません」(東急百貨店広報)

もしも、超高層ビルで火災が発生したらどうなるのか。

「梯子車は高さ四〇メートルまで届きます。それより高い場合はヘリコプターなどの救助もあります。が、基本的には各事業所単位で初期消火をするよう法律で定めてあります」(東京消防庁広報課報道係)

備えあれば憂いなし。だが、昭和四八年一一月、熊本の大洋デパートのように、出火と同時に停電、館内放送ができず、工事中でスプリンクラーも作動せず、死者一〇四人を出した例もある。災害はたいてい人の意表を衝いてくるから、怖い。

ベストセラー

売れすぎて軍部に睨まれた『のらくろ上等兵』の〝皮肉〟

◀『のらくろ上等兵』(1円)

この年のベストセラーに『のらくろ上等兵』(講談社)がある。「少年倶楽部」の連載が単行本になったものだが、あまり売れすぎて、軍からは、軍や軍人を商業主義的なキャラクターにしていると睨まれたらしい。後に表向きは別の理由から、連載中止の憂き目にあっている。

作者・田河水泡の告白(「のらくろ始末記」)によると、この「のらくろ」のモデルは作者自身であった。「だから犬を擬人化したのではなく、私を擬獣化した漫画」というわけだ。読者としては、不幸な境遇にいる子どもたちを意識した。間抜けで年中叱られるようなことばかりしている「のらくろ」なら、そういう子どもたちも優越感を持って見ることができる。また、失敗が怪我の功名となって出世していくおかしさが、子どもたちに夢と笑いを与えることになるだろうと、作者は考えたのである。これが好評をもって迎えられ、ドジで間抜けな兵隊が一躍人気者になっていった。現実社会で軍国化が進められていた時代の大いなる皮肉であった。

時代の流れを敏感に反映した出版物が多くなっていた中で、雑誌「唯物論研究」(木星社書院)の創刊が注目された。長谷川如是閑を代表者として発足した〝唯物論研究会〟の機関誌という形で刊行された。創刊号冒頭で長谷川は「本会は『唯物論』という一つの対象にだけ限定されるもので、これを外にしては何の制約も領域もない、無論多くの学界の組織のや、もすればそこに堕落するやうな閥的、又はギルド的、或は宗派的の、一切の不純の結晶をもたない、純学問的協同の組織であらねばならぬ」と記し、その理想の高さを明らかにした。創刊号執筆者には、長谷川のほか、三枝博音、戸坂潤、狩野亨吉などの名が見られた。

また、時代の変化にも動じるところなく編まれ続け、この年結実した出版物に、大槻文彦著の『大言海』第一巻(冨山房)がある。明治二四年に刊行された『言海』の増補改訂版として、明治四五年にスタートした企画だった。昭和三年、当の大槻文彦が八〇歳で亡くなるという不幸な事態を迎えたが、元の原稿ができていたため、全四巻(別巻一)を完結することができた。

▶「唯物論研究」創刊号(四五銭)

大宅壮一文庫提供

◀『大言海』(各巻6円50銭)

冨山房提供

スターと名場面

〝ゼリフまわし〟は舞台仕込み 水谷八重子のトーキー「浪子」

マツダ映画社提供

▲「浪子」でモダンガールを演じる水谷八重子(右)と相手役の大日方傳(左)。

この年、映画ではトーキー化が進んで、弁士や楽士の解雇が相次ぐ一方、舞台では東京宝塚劇場ができるなど、興行界に大きな変化が生じつつあった。

トーキーでは、アメリカのウエスタン・システムによるトーキーの第一号作品が、オリエンタル映画社の製作で公開された。作品は徳冨蘆花の『不如帰』の翻案である「浪子」(田中栄三監督)で、主演の浪子を水谷八重子(先代)が演じた。水谷八重子はその舞台女優としての能力とキャリアを発揮し、初めてのトーキーでセリフまわしに苦労していたほかの俳優を圧倒した。

一方、洋画ではハリウッドの大監督キング・ヴィダーの「チャンプ」が公開された。ボクシングの元チャンピオンとその息子との、深い愛情を軸にした人情ドラマ。ボクシングシーンも斬新だった。

無声映画の方では、伊丹万作監督の「国士無双」が笑いを巻き起こした。剣豪と、そのニセモノの間で起こるドタバタ劇。剣豪役をひょうきんに演じる高勢実乗と、ニセモノ役の片岡千恵蔵のコンビも絶妙だった。

なおこの年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「金色夜叉」(林長二郎、田中絹代)「生れては見たけれど」(斎藤達雄)

▶「チャンプ」で主役の元チャンピオンを演じたウォーレス・ビアリー(左)は、その演技でアカデミー主演男優賞を受賞した。

川喜多記念映画文化財団提供

マツダ映画社提供

▲「国士無双」で剣豪役を演じた高勢実乗(中)と、本物より強いニセモノというコミカルな面もある役どころを演じた片岡千恵蔵(左)。

モノ語り'32

「アヲハタ ママレード」「ボーンチャイナ」、安全カミソリの「替刃」 〝国産〟登場で、身近になったモノたち

▲ジャムも外国並みに　ジャムといえばイチゴジャムがほとんどだった時代に、外国でよく賞味されていたオレンジ・ママレードを、旗道園(現・キユーピー)が製造、「アヲハタ　ママレード」という缶詰にして販売、好評を得た。〝アヲハタ〟というブランド名は、ママレードの本場イギリスのオックスフォード大学とケンブリッジ大学両校の伝統的ボートレースにおける旗に由来する。濃淡の違いはあるが、ともにブルーの旗だった。写真は当時の缶詰に貼られたラベル。

◀安全カミソリが一般的になった　長い刃で剃るいわゆる西洋カミソリに比べて、慣れていない人でもすぐ使える使い勝手のよさで人気を呼んだのが安全カミソリ。その替刃はもっぱら輸入にたよっていたが、この年、関安全剃刀製造(現・フェザー安全剃刀)が、ついに国産の「替刃」を製造・発売した。国産なので、厚さは0.08〜0.25ミリの各種、刃のつき方も片刃と両刃と、いろいろ取りそろえることができ、ユーザーも自分の毛質や肌の状態に応じて選べるようになった。

▶お釜のロングセラー　日本アルミニューム(現・日本アルミ)が開発して売り出した、アルマイト製の「ツルマル羽釜」が大ヒットし、ロングセラーになった。スチール製と違って、ごはんが焦げつかず、洗うのにも都合がよいという大きな利点がユーザーに歓迎された。

▼アイシャドーで一層お洒落に　モダンガールのお洒落にアイシャドーも登場した。女性のお洒落をリードしてきた資生堂が発売した「アイリッドセード」がそれである。目のふちの色を、その時のお化粧や服装に調和させるためのもので〝近代的な表情美〟(資生堂のコピー)を表すには必須の化粧品とされた。黒色、黒褐色、空色、緑色など6色あり、各1円だった。

▼日本で初めて製造した高級磁器　磁器の中でもとりわけ製造がむずかしいとされてきた「ボーンチャイナ」が、この年、日本陶器(現・ノリタケ カンパニー リミテド)によって、日本で初めて製造・販売された。ボーンチャイナはイギリスで生まれた白磁。硬質陶器の原料にボーンアッシュ(動物の骨灰)を加え、特別な焼き方で焼成する。独特の光沢や透明感を持つ乳白色の高級磁器である。

▲女性の進出を歓迎したタバコ　専売局(現・日本たばこ産業)はこの年〝婦人用〟と銘うって「麗(うらら)」を10本入り20銭で売り出した。フィルターのような吸い口つきのタバコで、薄紫色の紙で巻いたものと、ピンクの紙で巻いたものの2種類が入っていた。平型の箱もお洒落で、ユニークなタバコだったが、〝婦人用〟としたことで物議を醸し、わずか1年で発売中止となった。

たばこと塩の博物館蔵

雑誌メディアを使ったお洒落指導

資生堂の、お洒落に対する姿勢には並々ならぬものがあった。新しい化粧品を発売すると、ただちに「資生堂月報」(昭和8年「資生堂グラフ」に改題)などのメディアを用いて、その有効な使用法やお洒落のポイントを、写真入りでわかりやすく、具体的に示した。

アイシャドーなら、目の上につけるのが普通で、下の方だけに塗ると、目が〝凄くなって見よいものではありません〟と懇切丁寧だった。つまりたとえ新製品でもそれを購入した人は、誰に聞くでもなく、この雑誌タイプのメディアさえ手に入れれば、問題を解決することができたのである。

このような販売方法とアフターケアの発想は、その後も「花椿」などに、受け継がれていった。

◀〝新化粧法〟紹介。化粧前と後の実例写真も掲載(「資生堂グラフ」)。

人物クローズアップ

井上日召（四五）

要人暗殺集団「血盟団」盟主の〝一人一殺〟と国家改造の論理

昭和七年二月九日の午後八時すぎ、前大蔵大臣の井上準之助（六二）が、東京・本郷駒込で小沼正（二〇）という青年にピストルで撃たれ、絶命した。さらに、それから一ヵ月もたたない三月五日の午前一一時半頃、今度は、三井合名会社理事長の団琢磨（七三）が、東京・日本橋の三井銀行本店前で、菱沼五郎（一九）という小沼と同じ年格好の青年に射殺される事件が起きた。

取り調べの結果、二人の青年の背後に、井上日召（四五）という僧侶の名が浮かび上がった。井上は、「血盟団」と名づけられた〝テロリスト〟集団の盟主で、国家改造の名のもと、「一人一殺主義」を掲げて、政財界の要人の暗殺を実行に移していたのである。

井上日召は、明治一九年四月一二日、群馬県利根郡の川場村生まれで、本名・井上昭。井上には、子どもの頃から、ことの善し悪しやものごとの本質に、徹底的にこだわるという本質主義的な志向があった。なぜ人間は忠孝を守らなければならないのか、善と悪の標準はどこにあるのか——井上の疑問は人生に対する煩悶となり、その煩悶は長ずるにつれて深刻の度を増すばかりだった。明治四三年、井上はこうした悩みを抱えながら満州（中国東北部）へ渡る。

井上は、ファナティックな宗教的体質を持つ人物だった。その宗教体験はまずキリスト教に始まり、次に曹洞宗で座禅を組み、そして大正九年に日本に戻った井上は日蓮宗に帰依し、「法華経」の題目を唱える日々を送る。こうした遍歴を経ながら、彼はひとつの信念を確立し、長年の煩悶を解決していった。それは、満州からの帰国時に、井上の目に映った絶望的な日本の状況を打開するために、国家改造を行うことだった。日本は不景気にあえいでいるのに、特権階級や為政者は私利私欲にふけっている、このままではますます社会主義の風潮がはびこり、国体観念が失われる、それには直接行動以外にないと考えたのである。

昭和三年の三月頃、茨城県大洗の近くに立正護国堂という建物が建立され、日蓮宗の僧侶である井上がここに迎えられた。井上の評判はよく、近くの青年たちが彼の話を聞きに集まった。井上は、「法華経」の教義を現実の社会と対比させながら説き、青年たちはその情熱に魅せられて井上の帰依者になっていった。また、近くに海軍の霞ケ浦航空隊があり、ここに所属する藤井斉という士官候補生も井上に心服、その藤井を通じて、海軍内にも井上を信頼する青年士官が現れた。

「血盟団事件」は、井上らが主導する革新運動の、第一次計画だった。第二次計画として、海軍革新青年将校を中心とする大規模破壊活動があり、これが、この年五月一五日の「五・一五事件」となるのである。作家の保阪正康氏は、井上の行動について次のように述べる。

「井上の目的は、直接行動によって、支配階級を恐怖におとしいれること。破壊から建設へ、というのが彼の考えでした」

「血盟団事件」後、井上は逮捕されて無期懲役の判決を受けるが、昭和一五年に仮出所。一六年には四元義隆らと「ひもろぎ塾」を設立。戦後も長らえて、昭和四二年三月四日、八〇歳で没した。

井上淳提供

▲井上は昭和15年、皇紀二千六百年大赦で仮出所する。16年頃、「五・一五事件」参画の三上卓（中央）、鹿児島・敬天舎の岡積勇輔と。

共同通信社

▲7年3月11日、警視庁に出頭した井上。2月以来、渋谷の頭山満邸にかくまわれていた。

▶『血盟団事件上申書・獄中手記』所収の、井上の獄中記「梅乃実」。公判速記録も公刊された。

高橋正衛提供

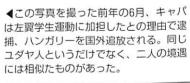
▲立正護国堂から「血盟団事件」にいたる頃の井上日召。井上は護国堂で小沼、菱沼らの農村青年を指導する一方、海軍急進派将校と非合法計画を密議していた。 井上淳提供

決定的瞬間

亡命革命家の獅子吼を撮った キャパ一八歳のデビュー作！「演説するトロツキー」の迫力

◀この写真を撮った前年の6月、キャパは左翼学生運動に加担したとの理由で逮捕、ハンガリーを国外追放される。同じユダヤ人というだけでなく、二人の境遇には相似たものがあった。

ロバート・キャパ／マグナム・フォト

革命家レフ・D・トロツキー（一八七九〜一九四〇）の後半生は不遇の中にあった。

スターリンとの権力闘争に敗れた彼は、一九二八年、「反革命活動」の罪状を与えられてモスクワを追われた。さらに翌年には国外追放処分を受けてトルコに亡命。トルコでは行動の自由が制限され、無為の日々を送った。

そんな時、一九三二年、デンマークの学生たちから「一〇月革命一五周年記念講演」の依頼を受けた。トロツキーは、友人たちに助けられてデンマーク政府と交渉、八日間のトランジット・ビザを取得して、一一月にコペンハーゲンにたどり着く。

一一月二七日、祖国を追われた初老の革命家は、「新しい社会主義的基盤に立つ時、（中略）すべての男とすべての女が——思想の領域で完全な力を持った市民となることができる」と、会場の学生たちに熱く革命の意義を訴えかけた。

革命当時から、トロツキーの演説は人を魅了するものがあった。よく通る声、威厳のある態度、そして豊かな身ぶりで聴衆を引きこみ、長時間の演説にもしわぶきひとつ起こさせない。そんな彼のカリスマ性の一端が、ロバート・キャパが写したこの一枚の写真からもうかがえる。

当時一八歳のキャパは、つとめていたドイツのニュース写真エージェントから依頼され、コペンハーゲンに着く。しかし会場は厳重に警備され、各国のカメラマンは入場を拒否されていた。キャパは新鋭小型のライカをポケットに入れ、会場設営の労働者にまぎれて会場に入り、この写真を撮影した。

トロツキーとキャパ、奇しくもともに祖国を追われた二人のユダヤ人が、歴史の中の一瞬をすれ違った。そしてこの作品が、キャパにとってデビュー作となったのだ。

トロツキーはソビエトを追放されても、なおかつスターリンにとっては目ざわりな存在であった。彼の精力的な著作活動もさりながら、レーニン亡き後の後継者とみなされていたことが、スターリンの脳裏から拭い去れない。

両者の権力闘争は、思想的にはスターリンの「一国社会主義」論と、トロツキーの「永久革命」論との理論闘争として表れた。一方でこの論争は、「疲弊したロシアの現実に休息を与えるか」、「ヨーロッパの革命勢力と連帯しつつ、さらに革命の理想を追求するか」、という選択でもあった。

自己の勢力を共産党政治局に集中したスターリンはこの論争に勝利する。またレーニンが死亡した時に、病気療養に出かけていたトロツキーが葬儀に参列できなかったということも、多くの党員に不信感を与えた。しかし、それは、スターリンが打電した偽りの情報に翻弄された結果であった。

トロツキーはトルコへ国外追放された後、さらにフランス、ノルウェー、メキシコへと流浪した。革命の理想を追求し続けた彼は、このコペンハーゲンの演説から八年後、一九四〇年八月二〇日夕刻、メキシコの自宅で、スターリンのはなった刺客に襲撃され、翌二一日に死亡した。

美の出会い

軍艦「三笠」、「ドックス号」“前人未到”の付録続々！熱狂の「少年倶楽部」時代

▲「大飛行艇ドックス号大模型」(昭和6年4月号)。　「ドルニエ・ドックス号」は500馬力12基のエンジンを備えたドイツの飛行艇で、当時世界一の偉容を誇っていた。第三種郵便の規定で、紙製の付録のみだった当時、厚紙4枚で組み立てられる画期的な大模型だった。

◀「世界一高いエンパイア・ステート・ビル」(七年二月号)。　前年にニューヨークの五番街に完成した三八一メートルのビルが、さっそく模型となって登場した。

“昭和ヒトケタ”の時代、全国の少年が発売日を待ちかね、熱狂したものと言えば、まず「少年倶楽部」の付録があげられる。六点ついた昭和七年新年号の付録の中で、目玉は「軍艦『三笠』の大模型」の組み立てだった。

「三笠」は日露戦争で連合艦隊の旗艦として戦い、海戦史に勇名をはせた軍艦であり、大正一五年に横須賀港に永久保存されていた。これに目をつけた「少年倶楽部」編集部は、「三笠」を見る機会を持てない全国の子どもたちを喜ばせようと考えた。当然、図面は実物をもとに設計され、敵弾の跡や東郷平八郎司令長官が全艦隊を指揮した位置まで示す細かさで、徹底的にリアリティーにこだわった組み立て模型が生み出されたのである。

A3判の厚紙六枚とB5判よりやや小さめの厚紙二枚の、計八枚からなる三笠の組み立て模型は、完成すると全長八二センチ。社内から「子どもに組み立てられるのか」という不安の声があがったが、編集部は自信を持って押し切った。

この新年号は、六五万部を超す部数が発行され九三パーセントを売り上げた。発売後まもなくして、福岡県の小学校教師からクラス全員で組み立てたという完成模型を持った子どもたちの写真が送られてきて、編集部員は大喜びしたという。

大正三年一一月、大日本雄弁会（後の講談社）から「少年倶楽部」が創刊された頃は、少年雑誌の黄金期と呼ばれる時代で、ライバル誌がひしめき競い合っていた。他誌を抜いて後発の「少年倶楽部」をトップの位置にまで引き上げたのは、大正一〇年に二五歳で編集長になった加藤謙一の力が大きかったと言えるだろう。就任当初は一万〜二万五〇〇〇部程度だった「少年倶楽部」を、昭和二年の新年号では三〇万部、翌三年の新年号は四五万部、六年の新年号は六七万部とうなぎのぼりに部数を伸ばしていった。

野間清治社長の唱える「面白くて為になる本」を金科玉条として編集にあたった加藤は、本誌の読み物も大佛次郎や吉川英治、川端康成らの一流作家に依頼する一方、付録にも情熱を注いだ。当時、「少年倶楽部」の編集にたずさわっていた松井利一は、加藤編集長について、次のように語っている。

「いつでも加藤編集長には、新案はないか、前人未到、破天荒の案はないかと責められたものですよ。『新案がなければゼロ案でいいから出してくれよ』」（『思い出の少年倶楽部時代』講談社）

「ゼロ案」と名づけられた実現不可能と思えるような案でも、積極的に提案させたのである。加藤の付録にかけたエピソードは数々あるが、中でも昭和六年四月号の付録「大飛行艇ドックス号模型」の案は、編集部を驚かせ、模型の設計製作者・中村星果に息をのませ、模型そのものは読者の少年たちを驚喜させた。

付録のヒントになるようなものをさがしに日本橋・三越に行った加藤は、玩具売り場でドイツ製の六発飛行艇の模型を目にした。見本だから売れないという店員の言葉にも屈せず、加藤は、ねばりにねばって、なんとか入手。さっそく、編集部に持ち帰り、風呂敷包みを解いて、「どうだ、これが今度の付録だ」と見せたという。あきれかえる編集部員をよそに、加藤は「天才の中村さんは何とかしてくれるよ」と言って、日本初の大型組み立て付録「ドックス号」案をスタートさせた。

「中村さんの死に物狂いの設計によって、新聞一ページ大の厚紙四枚に納まるとわかった。それに全部刃型を入れてハサミは使わない。すべてさしこめるようにして、のりはいっさい使わない。このやり方こそ中村式組み立て法の新案として特記されなければならない」と加藤は自著『少年倶楽部の時代』の中に記している。

まさに「前人未到」の付録は、読者から熱狂的に迎えられ、発行部数三八万部、売上率九六パーセントという新年号以外では創刊以来の記録を更新したのである。

編集部の破天荒のアイディアと中村の才能が作り出した付録は、「少年倶楽部」の部数を飛躍させる大きな要因となった。

◀「名古屋城の発光大模型」(六年八月号)。中村星果が名古屋まで出かけていって、現地で検分してから製作にとりかかったもの。暗闇でも見えるようにと、エラジュームの粉末を使った。

▲「軍艦三笠」(7年新年号)。　仕上がりは全長82センチにもなる大模型。子どもが組み立てるには、1週間かかったという。

▼「パノラマ大模型 日新丸の鯨狩」(12年2月号)。　「日新丸」は全長164メートルの、当時日本最大の捕鯨母船だった。この年7月の盧溝橋事件を機に、付録は中断される。

凧の博物館

自然と人間をつなぐ"飛行体"の奥深さを味わう

東京・中央区

桑原茂夫

正月の澄んだ空に凧が舞う――そんな"風物詩"も最近はあまり見られなくなった。凧揚げが正月の代表的な遊びであった時代は過去のものとなってしまったようである。だいいち凧を知らない子どもがいるという話もちらほら伝わってきて、まさかそこまではと思っていたのだが、これが冗談ではなかった。凧を知らない子どもの存在が、凧愛好家をして、世界で初めてという「凧の博物館」を作らせてしまったのだから。

作ったのは、東京・日本橋にあるレストラン"たいめいけん"の先代のご主人・茂出木心護さん。凧を知らない男の子を目のあたりにして、これではいかんと、自分の凧コレクションをもとにした「凧の博物館」開設に踏み切った。昭和五二年のことである。

その心意気のおおもとにあったのが、凧への愛情であったことは言うまでもない。凧揚げが小さい頃から好きだったのだという。

ところで凧揚げの醍醐味は、試行錯誤を経て凧が高く舞い上がった時の達成感にもある。しかし、上空で凧が受けている風を、糸をたぐる指先を通して全身で感じとる、その不思議な感覚、言い換えれば、自然とのリアルな一体感にこそ、何物にも代えがたい喜びがある。一度この喜びを知ると、これは捨てがたいものだ。博物館を開設した茂出木心護さんが"凧を知らない子ども"にショックを受けたのも、また少しでも凧のことを知ってもらおうと、博物館開設に力を入れたのも、そんな喜びを分かち合いたかったからだろうと思うのだ。

かくして、レストランの上に「凧の博物館」はできた。世界で初めての凧専門の博物館だった。展示スペース一一七平方、凧および関連物の収蔵点数約三〇〇〇点という立派な博物館で、現在は息子さんの茂出木雅章さんが館長をつとめて、博物館の運営と凧の普及活動に力を注いでいる。

館内に入ると正面に、大胆なデザインと色鮮やかな錦絵で、これぞ凧！というところを見せる「江戸錦凧」と、その最後の作り手"江戸凧師"橋本禎造さんの仕事場を再現したコーナーがいきなり目に入ってくる。そしておもむろに周囲を見渡すと、日本各地の多種多様な伝承凧、何枚もつらねて飛ばす連凧、各種のミニ凧、戦時中に米軍が日本の零戦を撃ち落とす訓練に使った"ターゲット・カイト"など、優雅な遊びの中の凧から、戦争に使った実用凧まで、まさに古今東西の凧であふれている。それに糸巻や糸など、凧の関連品も展示してあって、凧という、人とつながった飛行体の奥深さを改めて感じさせられるのであった。

●凧の博物館
東京都中央区日本橋一―一二―一〇
たいめいけん五階
☎〇三―三二七一―二四六五
地下鉄銀座線・東西線・都営浅草線日本橋駅下車徒歩二分。
開館時間＝一一時～一七時
休館日＝日曜、祝日
入館料＝一般二〇〇円

▶"最後の江戸凧師"と言われた橋本禎造さんの仕事場を再現したコーナー。橋本さんは歌川派の浮世絵師でもあった。ダイナミックで美しい凧が周囲を彩る。

▲天井にそって連凧（写真では同じ模様の凧）が見える。ギネスブックには、はがき大の大きさで1万3000枚つらねたという、連凧の大記録も載っているという。しかも日本人の記録である。

乙咩雅一

▲各種のミニ凧。コレクションするには手頃かもしれない。

▶戦時中、米軍が使った"ターゲット・カイト"。

「問答無用、撃て！」――
2発の銃弾が犬養首相の命を奪った
クーデター「五・一五事件」の全貌！

▲5月15日の事件後、東京憲兵隊は近衛師団150人、第1師団300人の補助憲兵の応援を得て、市内に非常警戒態勢を敷いた。写真は憲兵隊本部へ向かう歩兵。 共同通信社

「五・一五事件」は軍人だけでなく、民間人も参加したクーデターだった。世界恐慌の波は農村に壊滅的打撃を与え、困窮した農村出身者たちは、志を同じくする青年将校らと「現状打破」を求めて決起したのである。時の犬養毅首相を暗殺したこの事件を契機に、政党内閣がつい え、日本社会は急速に右傾化していく。

政党政治の幕引き 首相に二発の銃弾

昭和七年五月一五日午後五時三〇分、犬養毅首相（七六）の住む永田町の首相官邸に乾いた銃声が鳴り響いた。海軍将校らによるこの日の決起は、後に「五・一五事件」と呼ばれる。

その日、朝から東京の空は晴れわたり、初夏を思わせるような暑さであった。立憲政友会の総裁でもあった犬養首相を襲撃したのは三上卓（二七）、山岸宏（二二）の両海軍中尉や、後藤映範（二三）陸軍士官候補生ら九人だった。彼らは二台の車で官邸に向かい、三上らが表玄関から侵入した時、犬養は日本間食堂にいた。三上はすぐさま拳銃の引き金を引いた。が、弾倉が空で不発に終わった。弾を装填し再び発砲しようとしたところ、犬養は両手を前にあげ制止した。議会でよく見られる首相なじみのしぐさだった。「話せばわかる――」。犬養はこう繰り返し、一隊を日本間へ通した。そこへ別の車で乗りつけた山岸中尉らがドカドカ軍靴のまま上がりこんだ。彼らを一瞥した犬養は「靴ぐらい脱いだらどうだ」と言い、さらに何かをしゃべろうとしたが、

▶古賀清志中尉。霞ケ浦航空隊所属。

▶三上卓中尉。巡洋艦「妙高」乗員。

▶資金面で事件に関与した大川周明。

▶愛郷塾塾長の農本主義者・橘孝三郎。

毎日新聞社

その瞬間、山岸が叫んだ。

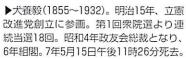
「問答無用、撃て！」

発砲したのは黒岩勇少尉（二七）と三上だった。至近距離から二発を被弾した犬養は、同日午後一一時二六分、官邸で息を引き取る。それは「憲政の神様」の死であると同時に、政党政治の終焉でもあった。その後、三上らは警視庁を襲い、日本銀行に手榴弾を投げ、午後六時頃、東京憲兵隊に自首した。

▲「首相凶弾に倒れる」の報に、永田町の官邸は訪問者でごった返した。写真は、日本間玄関での現場検証。 共同通信社

▶犬養毅（1855〜1932）。明治15年、立憲改進党創立に参画。第1回衆院選より連続当選18回。昭和4年政友会総裁となり、6年組閣。7年5月15日午後11時26分死去。

共同通信社

▼犬養内閣の外相・芳沢謙吉は犬養の女婿にあたり、夫妻の間には10人の子どもがあった。写真は、急を聞いて官邸に詰めかけた芳沢家の人々。

毎日新聞社

その頃、ほかの部隊も決起行動を終え、憲兵隊に自首し始めていた。午後五時二〇分頃、芝区（現・港区）の牧野伸顕（七〇）内大臣官邸を襲撃した第二組五人は、玄関先で手榴弾一個を爆発させた後、警視庁玄関で拳銃を乱射し自首。第三組は、立憲政友会本部と警視庁を襲撃。それぞれ手榴弾一個を爆発させ、やはり自首した。また民間からの参加者の奥出秀夫（二二）は、午後七時三〇分頃、丸ノ内の三菱銀行に爆弾一個を投擲。別働隊である農民決死隊七人も、埼玉県の鳩ケ谷変電所など六変電所を襲撃。うち二ヵ所で爆弾を炸裂させた。事件は犬養ら二人の死亡者と重傷者五人を出して終わった。

事件の実行者は総勢二六人にのぼっていた。決起の動機について、前出の後藤は公判の席でこう語った。

「農漁村、中小商工業者の困窮はますます憂慮すべき事態だが、政権、財閥はなんらなすところがない。こうした状況を放任しておけば国難来ると憂慮し、我々は直接行動に移るべきと決意した」

新たな動乱につながった「五・一五」被告への判決

「五・一五事件」は、一部から熱烈な支持を受けた。参加者の裁判が始まると、全国から約七万通もの減刑嘆願書が法廷に送られたのである。

その背景には、恐慌による経済の破綻や、日本の大陸侵略による国際的孤立、そして五鉄道疑獄など続発する疑獄事件による政党政治への不信などがあった。特に農村の困窮は深刻で、キャベツ五〇個の値段がタバコ一箱にしか相当しないほど、農作物価格は下落していた。また冷害に襲われた東北地方では娘を色街に売る農家も現れ、一家心中や自殺が毎日のように新聞に載った。農村の疲弊を前に、やがて農本主義者の橘孝三郎やテロリズムによる暴力的国家改造を唱える井上日召らに共鳴し、直接行動への衝動に駆られるグループが形成されていく。

井上らは「五・一五事件」直前に前蔵相・井上準之助と三井合名理事長・団琢磨を暗殺し、一種の右翼ブームを醸成していた（「血盟団事件」）。この民間勢力と陸海軍の青年将校の「共闘」が、「五・一五事件」だった。だが一部から支持されたとはいえ、首相を暗殺したテロ行為は識者やマスコミから反発を買った。

「犬養首相の死は、政党内閣を終焉させるきっかけでした。他方、『福岡日日新聞』に同事件を『一種の虐殺』と断ずる菊竹六鼓の社説が掲載され、社説の掲載を禁止された『名古屋新聞』が空白のまま発行するなど、軍部批判も強まりました。軍部はこれを機に権力強化をはかろうとしたが、斎藤実内閣という軍、官、政党三者の寄せ木内閣にとどまらざるをえなかったのも、世論の反発が強かった証拠です」（愛知大学・江口圭一教授）

翌昭和八年、「五・一五」被告に判決が下った。三上に禁錮一五年、山岸が禁錮一〇年など、事件の重大さに比してかなり軽い刑であった。そしてこの判決は、新たな動乱へとつながっていく――。

「『五・一五』被告が重罪をまぬがれたため、軍隊内に〝決起しても許される〟という雰囲気が生まれ、また、陸軍には海軍に後れをとるなという意識が高まったのです」（東京女子大学・松沢哲成教授）

政党内閣が幕を閉じる一方、軍部、特に陸軍はその後、発言力をますます強め、日本社会は、思想統制強化などファシズムへの傾斜を一層深めていく。そして陸軍部隊約一四〇〇人が大雪の首都で「二・二六事件」を引き起こしたのは、このわずか四年後であった。

▲富士山頂に観測所開設（7月4日）国際協同観測の一環として、高山気象を観測するため、中央気象台が設置したもの。従来は夏季だけだったが、冬季にも使える観測所の完成で、通年観測が可能になった。

気象庁提供

ユニフォト・プレス

▲ナチス、第一党に躍進（7月31日）経済恐慌が深刻度を増す中、ドイツ総選挙は共和国擁護の社会民主党を押さえてナチスが230議席を獲得。党員は100万人を超えた。写真は宣伝活動中のナチス。

◀社会大衆党誕生（7月24日）社会民衆党と全国労農大衆党が合同して結成。安部磯雄委員長（左）、麻生久書記長のもと、反資本主義・反共産主義・反ファシズムを社会民衆党から継承した。

資生堂提供

▲32年型水着、黒が主流（7月）上はランニング型柄入り、下は腰巻型で、ベルトつきのものも多かった。写真は流行の水着姿の日活女優たち。後列中央から右へ山路ふみ子、夏川静江、星玲子。

▶白亜の駅舎、御茶ノ水駅完成（7月1日）総武本線の両国に向かう新高架線が営業を開始し、通勤客の増加に備え駅を大改造した。3階建ての秋葉原駅とともに東京の新名所に。

渡辺義雄

▶第10回ロス五輪開幕（7月30日）世界恐慌の影響で参加国は38ヵ国。日本は米国に次ぐ131人の選手団を送り、三段跳び、馬術、水泳で7つの金メダル。男子競泳陣は圧倒的な強さで5種目に優勝。

昭和7年7月

1（金）●満州中央銀行、開業。
●総武本線御茶ノ水―両国間の高架線開業。
●森永製菓、チューブ入りチョコレートを発売。
2（土）●関東消費組合連盟、政府米払い下げを要求。
3（日）●梅雨の晴れ間の東京で、母親の洗濯中などに海や川で幼児四人溺死。
4（月）●満州視察の真崎参謀次長乗車の奉天行き列車が東北義勇軍により転覆。
5（火）●ポルトガルでサラザールが首相に。独裁開始。
6（水）●満鉄総裁・内田康哉、外相に就任。
7（木）●東京で子ども三人が「満州事変ごっこ」の最中、馬占山役の子が空気銃で撃たれ負傷。
●琴演奏家・米川文子、和楽紹介のため訪ソ。
8（金）●ソ連、カムチャツカ・プチチー島で監禁されていた日本人漁師を釈放。
9（土）●ローザンヌ賠償協定調印。独の賠償額削減。
10（日）●デビスカップ準決勝で日本は伊に敗れる。
●「赤旗」、コミンテルン「三二年テーゼ」を掲載。
11（月）●司法省、衆院選に比例代表制採用と省議決定。
12（火）●農本主義者・権藤成卿、『農村自救論』を出版。
13（水）●金鉱探しのため小舟で樺太から沿海州に向け漂流中の少年、「大正丸」に救助される。
14（木）●教員俸給未払い問題で文部省が支払い督励。
15（金）●大阪港で第一回港祭り開催。
16（土）●日満貿易会社設立をかたり金員詐取の女性詐欺師「満州お霜」、横須賀署に捕まる。
17（日）●岡山県玉島町で小作争議激化。一〇人検束。
18（月）●東京市社会局、結婚相談所の新設を決定。
●関東軍、熱河省に侵攻し湯玉麟軍と交戦。
19（火）●浅草・隅田公園から「ラヂオ体操」を中継放送。
20（水）●奥むめおら、堕胎法改正期成同盟を結成。
21（木）●中国国民政府、抗日決定し張学良に動員命令。
●オタワで英帝国経済会議開会。
22（金）●内務省、失業対策委員会を設置。
23（土）●中国国民政府、「満州国」との郵便停止発表。
24（日）●全国労農大衆党と社会民衆党が合同し社会大衆党結成。
25（月）●満州国協和会、発足。
26（火）●「満州国」、新切手・はがき発売し郵政事務開始。
27（水）●農山漁村の欠食児童が二〇万人突破と新聞に。
28（木）●東京市会、一九四〇年の五輪誘致運動を決議。
29（金）●米配給のデマで東京・大島町役場に人々殺到。
30（土）●ロサンゼルス五輪開幕。日本は一三一人参加。
31（日）●ナチス、独総選挙で二三〇議席、第一党に。

木村栄文『記者ありき』／菊竹家提供

証言・あの日この日
菊竹六鼓（51）

5月19日（木）〈今回の事件に対する東京大阪の諸新聞の論調を一見して、何人もただちに観取するところは、その多くが何ものかに対し、恐怖し、畏縮して率直明白に自家の所信を発表しえざるかの態度である。……いうべきをいわず、なすべきをなさざるは、断じて新聞記者の名誉ではない〉（菊竹六鼓『騒擾事件と輿論』）

「五・一五事件」に対して多くの新聞は軍部からの言論弾圧で沈黙させられた。しかし「福岡日日新聞」の記者・菊竹六鼓だけは、激しく軍部を批判し続け、憲政擁護の論陣を張り続けた。それに対して軍関係者の反撃もすさまじく、不買運動や抗議行動で威嚇した。しかし菊竹と「福岡日日」は、徹底的に抵抗した。そして逆に菊竹は、返す刀で、軍部に迎合して沈黙した「朝日新聞」や「毎日新聞」の弱腰ぶりを痛罵した。（山崎行太郎）

東京動物園協会提供

◀上野動物園でライオンに赤ちゃん（8月25日）前年、エチオピア皇帝ハイレ・セラシエ1世から贈られた、つがいから生まれた。雄は富士、雌は桜と名づけられた。

▲城西消費組合本部、基礎工事始まる（8月26日）東京の高円寺に建設。同組合は、7月、政府米払い下げの「米よこせ運動」で活躍した関東連盟のひとつ。

▶上海で「廃止内戦大同盟」結成（8月）日本軍による中国侵略の激化は上海の抗日世論に火をつけた。日本と妥協し掃共作戦を進める蔣介石に対して、国民政府を支える財閥にも内戦停止を訴える動きが現れた。

◀時局匡救議会に中小商工業者の請願（8月25日）第63臨時議会は、昭和5年から続く農村凶荒から、農民を救うために召集されたが、不況に悩む中小商工業者もその窮状を訴えた。

▶失業深刻化する米国（8月）1929年の世界恐慌によって工業生産は半分に低下し、この年、労働者の4人に一人は失業していた。写真はニューヨークの職業紹介所に列を作る求職者。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

昭和7年8月

1（月）●東京地方米よこせ会、政府米払い下げを農林省に要求（政府、台湾米を払い下げ）。
2（火）●市ケ谷刑務所で待遇改善要求ハンストの共産党被告、衰弱による拘留停止で出所。
3（水）●日本アルプスへの女性登山者が急増と新聞に。
4（木）●ロス五輪三段跳びの南部忠平、世界新で優勝。
5（金）●北海道空知炭坑でガス爆発。五七人が死亡。
6（土）●東京・赤坂のダンスホール「フロリダ」で火災。
7（日）●羽田沖で伝馬船転覆。海水浴客ら十数人溺死。
8（月）●安達謙蔵ら民政党脱党派、新党準備会結成。
9（火）●ロス五輪水泳八〇〇メートルリレーで日本が世界新で優勝（男子競泳六種目中五種目で優勝）。
10（水）●満州北部で大洪水、ハルビンは一メートルの浸水。
11（木）●東京・築地魚河岸の争議決裂。買出人組合は不買を決議、市場側は行商隊を組織。
12（金）●東京宝塚劇場、創立。社長・小林一三。
13（土）●岐阜県上空で各務原飛行連隊機が衝突、墜落。
14（日）●日本航空、東京―旭川間定期航路試験飛行。
15（月）●舞踊家・市川かの子、共産党シンパ容疑で検挙。
16（火）●愛媛県沖で貨物船二隻が衝突、一八人不明。
17（水）●警視庁特高部、元労農党書記長・細迫兼光を共産党シンパ容疑で検挙。
18（木）●百貨店に対抗する全日本商店会連盟設立。
19（金）●斎藤首相暗殺謀議で医博・今牧嘉雄ら起訴。
20（土）●近衛歩兵第四連隊で二百余人が集団食中毒。
21（日）●第一回ベネチア映画祭閉幕（6日～）。
22（月）●関東軍、満州移民に屯田式移民法採用を決定。
●浜名湖国道橋（浜名橋）開通。
23（火）●文部省、国民精神文化研究所を設置。
24（水）●自治農民協、五万通の救済嘆願書を議会提出。
25（木）●内田外相、「満州国」承認の決意表明で「国を焦土にしても」と答弁（焦土外交演説）。
26（金）●鉄相、京成・京王・王子三電鉄に合同を要請。
27（土）●アムステルダムでロマン・ロランら文学者による第一回国際反戦大会開催。
28（日）●東京のカフェー、バーは七五一一軒、女給二万二七七九人で「カフェー全盛時代」と新聞に。
29（月）●一般団体も参加の婦選後援団体連合会を組織。
●広田駐ソ大使、ソ連に北満鉄道の「満州国」移譲を提議（9月6日ソ連側同意）。
30（火）●東京自動車業組合、大手の石油値上げに対し英国資本の赤貝印ガソリン不買を決定。
31（水）●杉坂陸戦隊司令官、上海市長に新聞の排日記事厳重取締りを要求。

◀独立運動の指導者ガンジー、無期限ハンスト(9月20日)インドのカースト最下級層の不可触民の権利を制限した選挙法に抗議し、獄中でハンスト。ヒンドゥー教指導者が、不可触民の州議会代表を認めたため、26日中止した。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

▲内助の新商売、タクシー運転手(9月)京都初の女性運転手としてハンドルを握るのは、京大助教授・蜷川虎三(後の京都府知事)夫人の律子さん。「夫の失業に備えて」と語った。

▲世界一周の飛行艇来日(9月4日)ドイツのグロナウ大尉ら4人乗りのドルニエ・ワール機は、定期航空路開拓のため北大西洋、北米、北太平洋を経て、この日霞ケ浦に着水し、大歓迎を受けた。

野沢正提供

毎日新聞社

▲日活争議、解決(9月6日)人件費を削減するため、監督、俳優ら200人の解雇を発表した太秦撮影所と、人員整理・減給反対を要求する従業員との争議は、女優・浦辺粂子ら180人が形式上「任意退職」することで解決した。

▶作家・久米正雄、トップ当選(9月10日)鎌倉町議会選挙で、「鎌倉をさらに住みよく」をスローガンに立候補。大佛次郎らの応援もインテリ層に支持され、町議選始まって以来の192票を獲得した。

朝日新聞社　「長野県美術全集」／郷土出版社提供

▶第1回せと物祭り、開く(9月16日)愛知県瀬戸市が、磁器の祖とあおぐ加藤民吉を記念して開いた。陶磁器の廉価販売などが行われ、今日にいたる祭りである。

昭和7年9月

1(木)●震災記念日のこの日、東京市連合防護団発足。
2(金)●衆院本会議、満州派遣軍への感謝決議案可決。
3(土)●チェコで女子陸上の故人見絹枝の記念碑除幕。
●東京市電、一三〇〇人整理と発表(10月25日スト指令、11月11日強制調停で労組敗北)。
4(日)●世界一周航路開拓中の独飛行艇が霞ケ浦着水。
5(月)●内務省、農村疲弊に「自力更生運動」を指示。
6(火)●日活争議、解決。浦辺粂子ら一八〇人が退社。
●勧銀など三銀行の不動産融資損失を政府が補塡する不動産融資および損失補償法公布。
7(水)●東京瓦斯疑獄で社長召喚、会社など一斉捜索。
8(木)●青森行き列車食堂車従業員がストで途中下車。
9(金)●東京の豪雨で諸河川が氾濫。一万戸が浸水。
10(土)●山中峯太郎『亜細亜の曙』刊行。
11(日)●中条百合子ら、コップ協議会開催中に検挙。
12(月)●比議会、日本人移民の地主化阻止請願を受理。
●彦根高ラグビー部員、試合中に初の死亡事故。
13(火)●南京国民政府、抗日激化で市内外に戒厳令。
14(水)●日本人絹連合会、操短を一二月に全廃と決定。
15(木)●日満議定書調印。日本、「満州国」を承認。
●賀川豊彦らが設立した東京医療利用組合の無産者向けの診療所が新宿で開業。
16(金)●全協第一回中央委、天皇制廃止を綱領に追加。
17(土)●「満州国」政府、ソ連の領事館設置を発表。
18(日)●中国共産党、国民政府軍兵士に抗日を呼びかけ(九・一八通電)。
19(月)●四万三〇〇〇人が満州国承認祝賀学生大会。
●大阪松竹座、スポーツ界冒瀆との陸連抗議で「吾等の南部選手」の上演を取りやめ。
20(火)●内田吐夢ら、独立プロ設立のため日活を退社。
21(水)●東京麻布歩兵第三連隊、国防思想普及のため府内高女一七校から三〇〇〇人を招待。
22(木)●警視庁、通経剤業者に堕胎宣伝厳禁と警告。
23(金)●二王国を統合し、サウジアラビア王国成立。
24(土)●太平洋横断の「報知新聞」機、消息絶つ。
25(日)●日本労働組合会議結成。右派労働戦線を統一。
26(月)●円タク八〇〇台がガソリン値上げ反対デモ。
27(火)●蘇炳文軍が日本に叛旗、満州里占拠し領事館封鎖(ホロンバイル事件。10月1日独立宣言)。
28(水)●大阪歌舞伎座、柿落としを挙行。
29(木)●グレタ・ガルボ主演「間諜マタ・ハリ」封切。
●東京のカフェーやバーの女給百数十人、歓興税反対を掲げ市役所へデモ。
30(金)●桜田門事件の李奉昌に、大審院が死刑判決。

▲人口551万、世界2位の東京市成立(10月1日)流入人口急増に対処するため、近隣82町村を加え、杉並・渋谷区などを新設して35区に。写真は大東京誕生を祝う花電車。

▶小松町大火(10月22日)石川県小松町(現・小松市)の映画館から出火、折からの強風で1187戸を焼失、被害額は800万円。同町は昭和5年の大火から復興したばかりだった。

小松市立博物館提供

▲レビュー合戦(10月8日)東京松竹楽劇部は、新橋演舞場での宝塚歌劇団東京公演に対抗し、東京劇場でレビュー「らぶ・ぱれいど」を公演(写真)。主役の吉川秀子(左)、水の江滝子(右)を中心に120人が出演した。

松竹提供

▶大隈重信の銅像完成(10月17日)明治15年東京専門学校として発足した早稲田大学は、創立50年祭を開催。この日、朝倉文夫が制作した創立者・大隈重信の銅像除幕式が行われた。

◀オートジャイロ試験飛行(10月15日)朝日新聞社が購入した英国製シェルバC—19型機が、大阪・城東練兵場上空を5分間の初飛行。最高時速145キロ、航続時間2.7時間。

▶伊のファシスト政府10周年記念祭(10月28日)1922年に政権を握り、バチカンと和解し、経済不況の中でファシズム体制を一層強化した。写真は演説するムッソリーニ首相。

朝日新聞社

昭和7年10月

1(土)●リットン調査団報告通達。「満州国」を否認。
●東京市、八二町村合併し二〇区を新設、三五区総人口五五一万人の世界第二位の都市に。
2(日)●清川正二、二〇〇㍍背泳ぎで世界新記録。
3(月)●第一次満州武装移民団四一六人、東京を出発。
4(火)●灘の酒造組合、不況のため酒造税延納を陳情。
5(水)●プロレタリア作家同盟幹部・大宅壮一、検挙。
6(木)●共産党員三人、東京の川崎第百銀行大森支店襲撃し三万円強奪(「スパイM」の謀略)。
7(金)●荒木陸相、軍事費確保の増税を要求。蔵相反対。
8(土)●初の国立公園候補地に阿寒・日光・日本アルプス・瀬戸内海・阿蘇など一二カ所決定。
9(日)●ソ連共産党、カーメネフ、ジノビエフを除名。
10(月)●川崎市の三菱製油所で火災。原油四〇㌧焼失。
11(火)●国際連盟、婦人児童の売買絶対禁止案を採択。
12(水)●池上本門寺で初の吉例お会式。人出五〇万人。
●愛国婦人会、「婦人報国運動」の具体策を協議。
13(木)●帝展の洋画入選一〇四点発表。プロレタリア美術家同盟の出品作はすべて落選。
14(金)●中東鉄道当局、チチハル—満州里間の日本軍による無条件利用を承認。
15(土)●上野動物園に猿山が完成し、初公開。
16(日)●英、英ソ通商協定の破棄を通告。
17(月)●早大の創立五〇年祭開幕。大隈重信像が除幕。
18(火)●三大製紙会社合併の仮調印で王子製紙誕生。
19(水)●法制審委員会が私営選挙運動禁止の方針決定。
20(木)●山本有三「女の一生」、「朝日新聞」で連載開始。
21(金)●南ア・トランスバールで巨大金鉱脈発見。
●東京ステーションホテルの全従業員、待遇改善怠る精養軒への警告を当局に要求と決定。
22(土)●石川県小松町で大火。一一八七戸が焼失。
23(日)●戸坂潤・岡邦雄ら、唯物論研究会を結成。
24(月)●東京に大日本国防婦人会設立。
25(火)●宮内省、「皇后懐妊」の一部新聞報道を否定。
26(水)●第一回発明奨励委員会総会、開催。
●北大、「赤化事件」で放学など六一人を処分。
27(木)●奈良県三笠山の山頂全体が古墳と判明。
28(金)●大槻文彦『大言海』(冨山房)刊行開始。
29(土)●対時局帝国在郷軍人会全国大会開催。
●赤松常子ら婦人雄弁家養成の弁論研究会開催。
30(日)●熱海での共産党全国会議で、幹部一一人検挙(第三次共産党事件)。
●小松製作所、国産初の農業用トラクター完成。
31(月)●高松高商で左翼学生退学撤回求めハンスト。

毎日新聞社

▲**国家社会主義派の日本労働同盟結成(11月20日)** 全国労働組合同盟を脱退した40組合が、今村等を会長に結成。「満州事変」以後、労働運動にも右翼的潮流が台頭していた。写真はナチスばりのハーケン・クロイツの組合旗。

▼**井田川の小作争議、解決(11月14日)** 前年の凶作に悩む福島県福浦村井田川干拓地の小作人たちは小作料減免を要求し闘争は裁判に。この日、福島地裁が小作料の一時的減額などの調停を下し、争議団は解決を喜んだ。

共同通信社

▲**天皇、大阪の防空兵器視察(11月15日)** 京都・伏見桃山陵と同東陵を参拝後、大阪・大手前広場へ。大阪市民が献納した野戦砲16門、飛行機の位置・高度・機数がわかる聴音機(写真)を視察した。

共同通信社

▶**満州のデパート嬢に求職者殺到(11月28日)** 満蒙毛織会社が奉天(現・瀋陽)に新設するデパートで30人の東京娘を募集。飯田橋の職業安定所には500人が殺到した。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▲**民主党ルーズベルト、米32代大統領へ(11月8日)** 選挙人の89パーセントの支持で現職フーバーに圧勝。以後、行政主導のニューディール政策を推進して、アメリカの大不況を克服した。

▶**東方大関玉錦、第32代横綱に昇進(11月17日)** 西方関脇天龍らの相撲協会脱退騒動が続く中、熊本の吉田司家で横綱授与式が行われた。猛烈な突っ張りと突進力で人気となり、玉錦時代を築いた。

毎日新聞社

『写真集 ふくしま百年』/福島民報社

昭和7年11月

1(火)●普通電話制実施。兵庫県では特設電話制との料金格差に抗議し料金不払い同盟結成。

2(水)●房総東線誉田駅で列車衝突。三五人死傷。

3(木)●共産党中央委員・岩田義道、警視庁で拷問死。
●ワイズミューラー主演「類猿人ターザン」封切。

4(金)●八幡製鉄所で厚さ〇・一五ミリの薄鋼板が完成。

5(土)●「五・一五」事件関係で頭山満の三男検挙から陰謀発覚、六人検挙(天行会事件)。

6(日)●埼玉県所沢署、養育費目当てのもらい子六人を虐待死させた夫婦を検挙。

7(月)●「満州国建国公債」の発行決定(三〇〇〇万円)。

8(火)●米大統領選挙。民主党のルーズベルト圧勝。

9(水)●円安で米での日本製品売れ行き好調と新聞に。

10(木)●シンガーミシン争議団、荷車で行商開始。

11(金)●大和平野で三日間の陸軍特別大演習、開始。
●布施辰治、左翼事件公判発言で弁護士会除名。

12(土)●東京地裁判事・尾崎陞、共産党シンパとして検挙(司法官赤化事件)。

13(日)●熱海地方最古の海蔵寺から出火、全焼。

14(月)●関東を大型台風が直撃。千六百余戸全壊。

15(火)●子母澤寛「国定忠治」、新聞で連載開始。

16(水)●仁科芳雄ら、原子物理学研究会を結成。

17(木)●三三年ぶりに獅子座の流星雨が観測される。
●東方大関玉錦、横綱に昇進。

18(金)●ホロンバイル事件で監禁された日本人女性ら一一三人、マツエフスカヤを出発。

19(土)●逓信省の曽根式テレビジョン、公開実験成功。

20(日)●静岡駅前に松坂屋開店。六万人が詰めかける。
●右翼の日本労働同盟結成。組合旗に鉤十字。

21(月)●国際連盟理事会開催。松岡洋右全権が演説。
●佐賀商船廃校反対の生徒らが宗竜寺に籠城。

22(火)●東京中央放送局、初の録音放送を行う。

23(水)●福島県上真野村が村営結婚式始めると新聞に。

24(木)●長谷川如是閑『日本ファシズム批判』、発禁。

25(金)●明大の学生千余人が不当休講反対で同盟休校。

26(土)●初の児童唱歌コンクール。男子入選は杉並第一尋常高等小、女子は仙台市東二番丁尋常小。
●内地石炭の販売統制を目的に昭和石炭設立。

27(日)●廃娼デー。廓清会など、廃娼署名運動を開始。

28(月)●静岡県十国峠に献納による夜間航空灯台完成。

29(火)●仏ソ不可侵条約調印。
●医学士会、医師国家試験の実施要求を決議。

30(水)●青山杉作らの劇団東京が第一回公演開催。
●円安で一円=二〇ドルを割る(年平均約二八ドル)。

NHK提供

▲**除夜の鐘初中継(12月31日)** 東京中央放送局は、東京・上野の寛永寺、熊本・本妙寺、名古屋・大須観音など8つの名刹を結び、除夜の鐘をリレー放送。以後、大晦日の恒例となった。

◀**ニューヨークに世界最大の劇場誕生(12月27日)** 5番街近くに建設中のロックフェラー・センターに、ラジオシティ・ミュージックホールが誕生した。客席数は6200。写真は1939年の舞台「クロック」から。

PPS

▶**ジュネーブで国際連盟臨時総会(12月6日)** リットン報告書討議中、中国の「満州国」否定論に松岡洋右(写真中央)は、日満の提携で極東平和が確保されることを強調。

共同通信社

▼**砕氷貨客船「宗谷丸」就航(12月22日)** 稚内―樺太の大泊(現・コルサコフ)間の定期航路に「宗谷丸」が就航。結氷期でも運行でき、所要時間は8時間だった。

毎日新聞社

▼**東海道線で三重衝突(12月19日)** 濃霧で京都・加茂川鉄橋に停車中の貨車と、神戸行き急行が衝突。横倒しになった貨車に鳥羽行き快速が激突したが、死傷者は3人だけだった。

共同通信社

昭和7年12月

1(木)●衣笠貞之助監督のトーキー大作「忠臣蔵」封切。

2(金)●円タクの新料金認可。全市内最低五〇銭など。

3(土)●大東京タクシー争議、解雇なしなどで解決。

4(日)●拷問死の岩田義道の労農葬。二百数十人検束。

5(月)●田河水泡『のらくろ上等兵』刊行。
●駆逐艦「早蕨」、台湾北方で沈没。一〇六人死亡。

6(火)●日豊本線、小倉―鹿児島間が全通。

7(水)●陸軍省、学生が靖国神社礼拝を拒否した上智大・暁星中から将校を引揚げ。

8(木)●中国・山海関で中国軍が日本軍装甲列車攻撃。
●連絡船「紫明丸」、訓練発射の魚雷命中し沈没。

9(金)●電力連盟、関東から関西への電力融通案採用。

10(土)●東京市、月島に市民向けゴルフ場建設と決定。

11(日)●ソ中国交回復につき駐ソ代理大使から報告。政府、ソ連の「満州国」否認の明確化と判断。

12(月)●作家・中村進治郎とムーラン・ルージュの歌手・高輪芳子がガス心中はかる。高輪は死亡。

13(火)●全国大学教授連盟結成。「国策協力」を声明。

14(水)●ソ連映画班による「東京」の撮影完了。

15(木)●「満州事変」後の戦傷死三七三五人と陸軍省。

16(金)●東京・日本橋の白木屋で初の高層ビル火災。

17(土)●「軍犬報国」の帝国軍用犬協会発足。

18(日)●銀座の女給三百余人の一円寄付で作製した慰問袋トラック一台分が陸軍省に届けられる。

19(月)●上海爆弾事件の尹奉吉、金沢で銃殺刑執行。
●全国一三二新聞社、「満州国」支持の共同宣言。

20(火)●勝太郎歌のレコード「島の娘」、発売。

21(水)●ジュネーブ軍縮会議、独の軍備平等権を承認。

22(木)●「宗谷丸」、稚内―樺太大泊間の稚泊航路就航。

23(金)●内務省、労働者酷使の「監獄部屋」を厳重に取り締まるよう北海道長官などに通牒。

24(土)●翌年からの小学校読本の改正決定、国語の「サクラ読本」の挿し絵はカラーに。
●日銀、初めて所有国債の市中売却操作を実施。

25(日)●阪神電鉄、六甲山の遊覧オープンカーを運行。

26(月)●一高、放校・除名など左翼生徒一五人を処分。

27(火)●上田市、上田飛行場を陸軍に献納。
●日本人の菓子消費額は英を上回る、と新聞に。

28(水)●(財)日本学術振興会設立(理事長・桜井錠二)。

29(木)●文学筆頭に雑誌は四六二九種刊行と内務省。

30(金)●石川島自動車、ダット自動車買収を決議。

31(土)●東京中央放送局、初の除夜の鐘リレー中継。
●中国国民政府、日本軍の熱河省侵攻は武力で阻止すると声明。

俄楽多市

◀名古屋を本店とする松坂屋が11月20日、静岡店を開店。地元商店は反対したが、開店日には6万人の客。 松坂屋提供

流行語

かけ声だけの農村改革

「自力更生」。昭和七年五月に成立した斎藤実内閣のスローガン。不況にあえぐ社会の立ち直りをめざしたもので、特に農村の更生を目的としていた。しかし疲弊した農村に「頑張れ、精神力で立ち直れ」と言うだけで、経済的支援はないにひとしかったから、政府が強調すればするほどむなしく響いた。

「欠食児童」。この言葉は関東大震災後からボツボツ使われていたが、この年七月、文部省が「弁当を持ってこられない欠食児童が二〇万人」と発表したことから、時代のキーワードとなった。欠食児童は東北・北海道に集中し、娘の身売りも続出した。

「生れては見たけれど」。六月に公開された小津安二郎監督の映画のタイトル。映画は、中年サラリーマンの生態を喜劇タッチで描いたものだが、世間では将来に何の夢も持てない暗い世相を表す言葉として使われた。三年前に公開された、同監督の「大学は出たけれど」とセットで使われることも多かった。

「円タク」。本来はどこまで乗っても、料金が一円のタクシーのことだが、この年には私娼をさす言葉として広がった。一円でOKという意味。

食

ポークカツからとんかつへ呼び名変わって大流行

それまでポークカツと呼ばれていたのが"とんかつ"と変わったのは昭和七年だった。東京・上野の「楽天」という店が最初で、ほぼ同時に浅草の「喜多八」でもこう呼び始めた。とんかつという呼び名になじみのない客は「とんかつとは何かね」と尋ねるだけで、ほとんど注文がなかった。そこで「楽天」ではなたで切るくらい厚い肉という意味で、とんかつという字の上に"なた切り"と書いた。しかし「なたで切らないと切れないくらい硬い肉」と受け取られたため、あわててやめたという。その後、講釈師の橘円右が高座でとんかつのことを話題にして以来人気上昇、とんかつ屋もふえていった。

（加藤秀俊『食生活世相史』）

データ

浪曲師全盛 レコードの吹きこみ料

レコードの吹きこみがようやくさかんになってきた。当時は浪曲の全盛時代で、吹きこみ料も飛び抜けていた。

寿々木米若（浪曲師）一万四〇〇〇円。

木村友衛（同）六〇〇〇円。

吉田奈良丸（同）五六〇〇円。

淡谷のり子（歌手）一七〇〇円。

藤山一郎（同）一五円。

（倉田喜弘『日本レコード文化史』）

CM100年

新聞「オヽ！ 髭、髭 ヒゲに縁あり」ヒゲタ醤油（ヒゲタ醤油）

▲5月14日の喜劇王・チャップリンの来日にあわせ、各社が歓迎の広告を出した。

©大宮市立漫画会館 日本漫画資料館提供

▲北沢楽天画「爆弾三勇士の影響」が「漫画と読物」3月27日号に。戦争報道の子どもへの影響を風刺。

子ども

交通地獄の出現で道路から追われる子どもたち

昭和七年七月一日から一一月までに、警視庁管内では満一三歳までの子ども九三人が交通事故で死亡し、負傷者二六六六人を数えた。このため「交通地獄」という言葉がジャーナリズムをにぎわした。これをきっかけに子どもたちは道路上での遊びから閉め出され、裏通りの駄菓子屋などが子どもたちの"クラブ"として遊びの中心となっていく。

（斎藤良輔『昭和玩具文化史』）

▼家庭用のコリントゲームが小林脳行から発売されて流行。1910年アメリカで考案された。1円70銭。

杉山芳之助蔵 平凡社提供

三面記事

お家芸の原点は正座にあり

オリンピックが人々に強く意識され、日の丸を揚げるのが一種の国威発揚のように感じられ出したのは、昭和七年のロサンゼルス・オリンピックからではないかと思う。子どもの私はラジオから流れてくる寄席中継で、オリンピックのことを「オリンさんがびっくりしたからオリンピック」と言っているのを聞いて笑った覚えがあるが、その頃、面白い説があった。それはアムステルダムで織田幹雄選手が、ロサンゼルスでは南部忠平選手が、それぞれ三段跳びで金メダルを獲得してから、これが日本のお家芸のように言われ、その理由が正座にあると言われたことである。いわば正座の生活の方が、椅子の生活より膝の屈伸の練習になるからというようなことであったらしい。誰が言い出したのかわからないが、ただその結果、三段跳びやホップ・ステップ・ジャンプという言葉が一般化し、子どもでも知るようになった。

（山本七平『昭和東京ものがたり（一）』）

▶神代の衣裳で結婚式をし、そのまま富士登山に出発した山梨県敷島村の夫婦。奇抜な趣向の結婚式が流行。 朝日新聞社

はやり歌

影を慕いて

作詞 古賀政男
作曲 古賀政男

まぼろしの
影を慕いて 雨に日に
月にやるせぬ わが想い
つつめば燃ゆる 胸の火に
身は焦れつつ しのび泣く

わびしさよ
せめて痛みの なぐさめに
ギターをとりて 爪弾けば
どこまで 時雨ゆく秋ぞ
振音さびし 身は悲し

君故に
永き人世を 霜枯れて
永遠に春見ぬ わがさだめ
永ろうべきか 空蟬の
儚き影よ わが恋よ

▶古賀政男のレコード界へのデビュー作であり代表作。初めは昭和六年、佐藤千夜子が歌い、この年藤山一郎で大ヒット。

福田俊二提供（2点とも）

満州行進曲

作詞 大江素天
作曲 堀内敬三

過ぎし日露の戦いに
勇士の骨を埋めたる
忠霊塔を仰ぎ見よ
赤き血潮に色染めし
夕日を浴びて空高く
千里曠野に聳えたり

酷寒零下三十度
銃も剣も砲身も
駒の蹄も凍る時
すわや近づく敵の影
防寒服が重いぞと
互に顔を見合わせる

しっかり冠る鉄兜
たちまち造る散兵壕
わが連隊旗翻々と
見上げる空に日の丸の
銀翼光る爆撃機
弾に舞いたつ伝書鳩

◀前年の「満州事変」を受けて「朝日新聞」が軍歌を公募。その当選歌がこれで、徳山璉（たまき）が歌い、レコードになった。

風習

村の平和は大酒から 秋田県下の奇習

〔秋田発〕町や村あげての禁酒が流行する今の世の中に、秋田県南内城村字大浦では、全戸八〇戸の人々が何かにつけて寄り合って酒を飲むというので、広く県下に鳴り響いている。酒好きの秋田人であるから、八〇人ともなれば一回の酒の量も少なくて一斗二斗が普通である。その事情を尋ねてみると、大浦では江戸時代から、たとえば盗難事件が発生すると、どんな農繁期でも村人が総出で犯人をさがし出し、その犯人に規定の振舞い酒を提供させて、すべてを水に流してやるという風習があった。この風習が形式だけ残り、村の融和をはかるという名目のもと継続されているのだという。

（『実話雑誌』一一月号）

◀東京・浅草に「お寺の鉄筋アパート」が完成し、一一棟二一ヵ寺の入仏式、挙行。

レジャー

花のパリで大流行 油虫の賭け競走

〔パリ発〕近頃、パリでは"油虫の競走"が大流行。モンパルナスあたりのカフェでは、花のパリジエンヌがまなじりを決して油虫の走る姿に見入っている。この競走は張り物板ほどの長方形の板の上に一〇のコースが作られ、端っこの決勝点をめざして、各自愛玩の油虫を走らせるというのだが、これに数万フランの金が賭けられるとなれば、一匹の油虫といえども競走馬同様で、あだやおろそかにはできないのである。

これはもともと南フランスのニースやカンヌなどの贅沢避寒地で、金持ち階級が退屈しのぎに始めたのがパリにまで進出してきたのである。近頃では油虫の飼育もさかんに行われ、俊足の油虫の養成に余念がない。

（「朝日新聞」一二月一二日）

この年の初もの

ミートコロッケが資生堂パーラーに

●胃の内視鏡 岡山大医学部がドイツから輸入。

●レスリングの道場 一二月、早大に完成。

●タイムレコーダー 天野製作所（現・アマノ）で国産第一号が完成、いすゞ自動車に納入された。

●レジャー用モーターボート 江戸時代から組み紐の老舗として知られる道明家の子息が、日本で初めて購入。

▶三月二五日、そろいのベレー帽の小学生たちが春休みに向かってニコニコ。 共同通信社

世界の動き

超人的スイマーから"密林の王者"へ ワイズミューラー、銀幕デビューで「ターザン」映画、世界を席巻！

▶「ターザンの逆襲」（1936年公開）のジョニー・ワイズミューラーとモーリン・オサリバン。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

一九三二年三月二七日、シリーズの第九作目にあたるジョニー・ワイズミューラー主演の「類猿人ターザン」がニューヨークで公開された。このトーキー初のターザン映画は、その年の全米興行ベストテンに入り、日本でも一大センセーションを巻き起こしたのである。

児玉数夫提供

▲昭和12年4月、「ターザンの逆襲」日本封切時のチラシ。武蔵野館では2週のロングヒット、全国でも大入りを記録した。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

▲ワイズミューラー主演の第1作「類猿人ターザン」（1932年公開）。

「アーアアー」の叫び声でターザン人気が全世界に

「アーアアー、アアー、アアー」

森閑としたジャングルにエイプ・コール（猿の叫び）が響き渡る。すると、蔓から蔓へと飛び移りながらどこからともなくターザンがさっそうと現われる。

彼はアフリカの奥地、密林と猛獣が群れる未開の森に住む類猿人。実は幼い日に森に捨てられ、動物たちに育てられた白人の青年で、人間の言葉は話せないが野獣たちとは会話できる、文字どおりの野生児であった。

一九三二年三月二七日、"ターザン・シリーズ"の第九作目、ジョニー・ワイズミューラー（二七）演ずる「類猿人ターザン」が公開されると、それまでの猛獣劇映画をはるかにしのぐ大反響をもたらした。

トーキー時代の幕開きで、映像と音響がみごとに調和する技術的効果も加わったが、そのリアルな情景は、前年の一九三一年、アフリカ探検映画として大好評を博した「トレーダー・ホーン」の現地撮影の未使用フィルムによるところが大きかった。「類猿人ターザン」の撮影はハリウッド近郊のトルカ湖一帯で五ヵ月間行われたが、一方でこの未使用フィルムがバックの映像として使われて、一時間四五分におよぶ迫力満点の映画に仕立てられたのである。

ストーリーはきわめて単純だった。伝説の象牙の宝庫"象の墓場"をめざしてジャングルにわけ入る交易商人の一隊と、先住民ピグミー族との抗争の中で、ターザンが悪戦苦闘。象と猿を味方につけたターザンの活躍で、象牙を手にするという交易商人の目的ははたされないが、隊長の娘・ジェーンはジャングルにとどまるというもの。ジェーンとターザンの一風変わったロマンスも暗示され、二人が水中を泳ぎまわるシーンは、エロチシズムをいかんなく発揮し、おとなたちをも楽しませたのである。

一九三〇年代初頭、ターザン映画はアメリカ国内で圧倒的な人気を集めていた。映画にあやかった商品も、セーター、腕時計、キャンディー、水着と数限りなく、一九三九年には、ボーイ・スカウトに匹敵する「アメリカ・ターザン団」という組織が作られるほどであった。

ワイズミューラー演ずるターザン映画の大反響は、アメリカ国内にとどまらず世界に波及した。エチオピア皇帝ハイレ・セラシエ一世は映画のプリントを個人的に取り寄せていたと言われるほどで、全収益の七五パーセントは外国での興行によってもたらされていた。もちろん日本でも受けに受けた。洋画館だけでなく、邦画館でも上映されるほどの人気で、五〇銭の入場料を一〇銭高くした特別興行も大盛況だった。一九三五年度、日本で外国映画が公開されたのが二二〇本、「類猿人ターザン」は「キネマ旬報」のヒット映画ベストテンで堂々一位にランクされた。

「私が初めてターザンに出会ったのは小学六年生の昭和七年（一九三二）の一一月中旬、赤坂・溜池にあった葵館でした。それ以来ターザンに取りつかれ、その後のターザン映画は全部観ました。筋書きがシンプルで、しかもターザンはまるでナイト（騎士）のように高潔。密林の不気味さもたまらなく魅力でした」

こう語るのは、映画評論家の児玉数夫氏（現・七七歳）である。

シリーズ四〇本に一四人のヒーロー

アメリカの冒険小説家エドガー・ライス・バロウズ（一八七五〜一九五〇）が、最初の「ターザン物語」を書き上げ、パルプ雑誌「オール・ストーリー」誌上で

往きて還らぬ

▲8月15日　伊井蓉峰（60）
俳優。銀行員から演劇界に入り、新派の重鎮として活躍。当たり役は「婦系図」の主税、「金色夜叉」の貫一など。

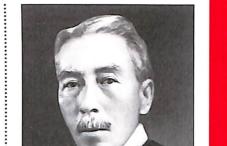
▲11月3日　岩田義道（34）
社会運動家。労農運動で活躍し、昭和3年共産党に入党、後、検挙。保釈中再逮捕され、拷問により虐殺された。

▲12月11日　森恪（49）
政治家。三井物産社員から大正9年政界入り。政友会幹事長として陸軍と結び、大陸侵攻の旗頭となった。

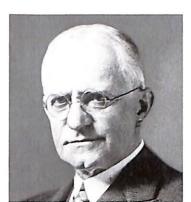
三代目江戸家猫八提供

▲4月6日　初代江戸家猫八（64）
物真似芸人。歌舞伎俳優に弟子入りしたが挫折。後、動物の物真似で寄席に出演、浅草を中心に人気を集めた。

▲5月26日　白川義則（63）
軍人、政治家。昭和2年陸相、7年上海派遣軍司令官となる。上海爆弾事件で重傷を負い、これが原因で死亡。

▶6月16日　一三代守田勘弥（46）
歌舞伎俳優。明治三九年、一三代襲名。古風な容姿で二枚目役を得意とし、翻訳劇でハムレットなども演じた。

▲3月5日　団琢磨（73）
実業家。大正3年三井合名の理事長、5年日本工業倶楽部の初代理事長に。「血盟団」の菱沼五郎に射殺された。

PPS

▲3月6日　J・P・スーザ（77）
行進曲「星条旗よ永遠なれ」を作ったアメリカの作曲家。スーザ楽団を結成してヨーロッパなど各地を巡業。

▲3月14日　G・イーストマン（77）
イーストマン・コダック社の創設者。1888年コダック写真機を考案、同社設立。カラーフィルムも発明したが自殺。

▲3月24日　梶井基次郎（31）
小説家。短編集『檸檬』で知られる。結核療養中「冬の日」「冬の蠅」などを書き、作品は死後高く評価された。

立川熊之助蔵

▲1月9日　立川熊次郎（55）
出版人。明治43年「立川文庫」を刊行。大正末期まで約200点を出版し、『猿飛佐助』などの人気シリーズを生んだ。

毎日新聞社

▲1月18日　三宅やす子（41）
小説家、評論家。大正末期に雑誌「ウーマン・カレント」を発行、話題を集めた。評論『未亡人論』、小説『奔流』。

▲2月9日　井上準之助（62）
政治家、元日銀総裁。昭和5年蔵相として金輸出解禁を実施、緊縮財政を実行。「血盟団」の小沼正に射殺された。

外から見たNIPPON

「五・一五事件」に遭遇した「喜劇王」チャップリンの"皮肉"

佐伯　修

この年の五月一四日朝、チャーリーことチャールズ・チャップリン（一八八九～一九七七）は、神戸港に到着した。

「日本人の歓迎ぶりには、噂に高い神秘性も慎しみもほとんど感じられなかった」

ハーンの著書の影響で、日本に、いくらか「東洋の神秘」幻想を抱いていたチャーリーは、「喜劇王」を一目見ようと殺到する群衆の熱狂ぶりに、いささか幻滅したらしく、一九六四年刊行の『チャップリン自伝』（中野好夫訳）にそう記している。

夕刻、特急「つばめ」で東京入りした彼は、翌一五日、犬養毅首相の長男・健と相撲観戦中に、首相が海軍軍人に暗殺されたとの報を受ける。「五・一五事件」であった。チャーリーはすぐ、犬養健を帝国ホテルの自室に連れていって、気つけのブランデーを与え、健とともに、二時間前に兇行の行われたばかりの首相官邸に駆けつけた。

「大きな血だまりが、まだ乾かずに畳の上にたまっていた。カメラマンや新聞記者が大勢つめかけていたが、遠慮して現場の写真は撮らなかった。だが、わたしをつかまえて、一言なにか述べろという。事件は家族にとっても、国家にとっても、大きな悲劇である、としか言いようがなかった」

彼は、翌一六日に、首相と会見し、公式レセプションにのぞむ予定だったのである。

こんなことが起きてみると、来日後、相次いだ、宮城遥拝を強制されたり、旅行カバンを何者かにさぐられたり、壮士風の男たちに春画を押し売りされかけたり、といった小さな不愉快な出来事も、実は事件に関連があったのではないか、とチャーリーには思えてくるのだった。ところが、後にチャーリーは、もっと驚くべきことを知らされる。なんと、自分を暗殺する計画があったというのだ。

「首相官邸でチャップリン歓迎会が開かれるということを新聞で知り、政府首脳部が集まると思って襲撃の計画をしたのです。またチャップリンをやれば日米外交に何物かを与えるだろうと思ったのですが、その日取りが分からぬので中止しました」（『五・一五事件陸海軍大公判記』より）

事件に参加した古賀清志海軍中尉は、法廷でこう陳述している。しかし、チャーリーは、実はアメリカ人ではなくイギリス人なのだ。暗殺してから「あっ、これはまことに失礼！」ということになったのでは、とチャーリーは『自伝』に皮肉っぽく書いている。が、ここでもし彼が殺されていたら、「モダン・タイムス」も「独裁者」も「ライムライト」も世になかったのである。

▲「二・二六事件」直後に再来日した。

人気を博したのは一九一二年一〇月のことである。そして六年後の一九一八年一月二七日、最初の映画「ターザン」がブロードウェイで封切られた。主役はエルモ・リンカーンで、サイレント映画史上、初めて総収入が一〇〇万ドルの大台に乗る大ヒットとなった。

その後ターザン映画は次々に作られていった。その数は一九六八年までに四〇本。計一四人のターザン役者が大活躍する。初代ターザンのエルモ・リンカーンから、二代目ジーン・ポーラー、五代目フランク・メリル、そして六代目ジョニー・ワイズミューラー、一四代目マイク・ヘンリーまで、MGMなど映画会社の純利益の合計は約五億ドルに達したと言われている。

しかしなんといっても、「ターザン」の人気を一挙に高めたのはワイズミューラーで、四〇本中、「類猿人ターザン」や一九三四年の「ターザンの復讐」など一二本に出演、その後ほかに類を見ない長期シリーズ映画の牽引車となった。

ワイズミューラーは「ハリウッド広しといえども、自然のままの肉体の持ち主で、衣服をつけずに演技できる唯一の男」という宣伝文句どおり、一メートル九〇センチの身長と九〇キロに近い堂々たる体格はまさに野生児ターザンにふさわしく、観衆を魅了するに十分だった。

彼は、一九二二年に水泳一〇〇メートル自由形で世界で初めて一分の壁を破った。以来、一九二八年までに世界記録を二四回も塗り替え、五輪金メダル五個、全米選手権タイトル五二個を獲得。タレントに転身して引退するまで無敗を誇った、超人的水泳選手であった。

「アーアアー」の叫び声は、手を口にあてたターザン・スタイルとともに海を越えて、世界中の子どもたちに熱狂的な流行をもたらしたのである。

ジョニー・ワイズミューラー（1904～1984）
アメリカの水泳選手、映画俳優。一九二四年パリ、一九二八年アムステルダムの五輪一〇〇メートル自由形を連覇。MGMと契約し、史上最高のターザン俳優とうたわれる。ほかにテレビ化もされた「ジャングル・ジム」シリーズなどに出演。

児玉数夫提供

▶一九三二年八月、ロサンゼルス五輪水泳会場で。旧知の間柄の高石勝男選手とワイズミューラー。

既刊44冊! 1940・1950・1960・1970年代がそろいました。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第45号 1月6日(火)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1933［昭和8年］

●特集
「鳴った鳴ったサイレン……」日本中が歓喜した皇太子ご誕生！／M八・一の巨大地震に続いて発生「三陸大津波」の恐怖！／身体中に残る拷問の跡 特高警察、作家・小林多喜二を虐殺！／四二対一で可決された「対日勧告案」 日本、国際連盟を脱退！

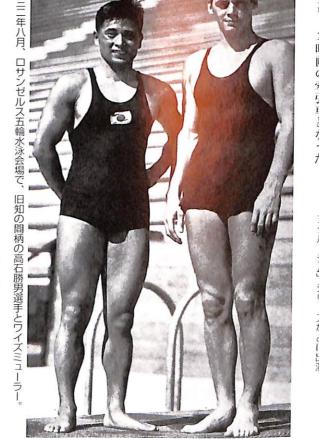
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…ヒトラー、独首相に就任（1月30日）／関東軍、熱河省に侵攻（2月23日）／ハーゲンベック・サーカス団来日（3月22日）／京大・滝川事件（5月26日）／丹那トンネル貫通（6月19日）／初の関東防空大演習（8月9日）／「東京音頭」大流行（8月）／米映画「キングコング」封切（9月14日）

●人物クローズアップ
古川緑波、「笑の王国」旗揚げ

●決定的瞬間
ナチスの陰謀？ 国会議事堂炎上の怪

●美の出会い
"アール・デコ"の傑作、朝香宮邸完成

●女たちの肖像…"花の委員長"水の江滝子／勝者・敗者…中京対明石の熱闘二五回／証言・あの日この日…堀口大學、河上秀／「現場」を歩く…明石町、聖路加国際病院の「癒し」の場／20世紀博物館…ライター博物館（東京）／外から見たNIPPON…トロツキーが見抜いた日本の破局

●ベストセラー…谷崎美学の頂点「春琴抄」／スターと名場面…大河内傳次郎の当たり役「丹下左膳」／モノ語り'33…「わかもと」「ビスコ」「丹頂チック」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円（税別）。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中

創刊号1959［昭和34年］ 第2号1964［昭和39年］ 第3号1945［昭和20年］ 第4号1970［昭和45年］ 第5号1963［昭和38年］ 第6号1958［昭和33年］ 第7号1972［昭和47年］ 第8号1980［昭和55年］ 第9号1976［昭和51年］ 第10号1989［平成元年］

第11号1960［昭和35年］ 第12号1961［昭和36年］ 第13号1962［昭和37年］ 第14号1965［昭和40年］ 第15号1966［昭和41年］ 第16号1967［昭和42年］ 第17号1968［昭和43年］ 第18号1969［昭和44年］ 第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］

第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］ 第28号1923［大正12年］ 第29号1971［昭和46年］ 第30号1973［昭和48年］

第31号1974［昭和49年］ 第32号1975［昭和50年］ 第33号1977［昭和52年］ 第34号1978［昭和53年］ 第35号1979［昭和54年］ 第36号1951［昭和26年］ 第37号1952［昭和27年］ 第38号1953［昭和28年］ 第39号1954［昭和29年］ 第40号1955［昭和30年］

第41号1956［昭和31年］ 第42号1957［昭和32年］ 第43号1931［昭和6年］ 第46号1934［昭和9年］ 第47号1935［昭和10年］

■今後の刊行予定

▶第48号1936［昭和11年］1月27日発売
日本を震撼させた「二・二六事件」●ベルリン五輪の"明暗"●西安事件●エドワード8世「王冠を賭けた恋」

▶第49号1937［昭和12年］2月3日発売
盧溝橋事件勃発、日中全面戦争へ●戦艦「大和」着工●南京虐殺事件●女性飛行家イアハート謎の遭難

▶第50号1938［昭和13年］2月10日発売
幻の東京五輪●岡田嘉子・杉本良吉、ソ連へ越境●代用品時代始まる●笑いの慰問団「笑わし隊」

▶第51号1939［昭和14年］2月17日発売
双葉山、69連勝でストップ●ノモンハン事件の悲惨●「零戦」初の試験飛行●第2次世界大戦勃発

▶第52号1940［昭和15年］2月24日発売
「紀元は二千六百年！」●「贅沢は敵だ！」、統制強まる●日独伊三国同盟締結●"海の狼"Uボート

▶第53号1981［昭和56年］3月3日発売
チャールズ、ダイアナ結婚●中国残留孤児の苦難●「窓ぎわのトットちゃん」刊行●フルムーンと熟年

ミニ事典

1932年のキーワード

スティムソン・ドクトリン
米国務長官スティムソンが一月七日に発表した、「満州事変」は侵略戦争を禁止するパリ不戦条約違反であり、認められないとする宣言。すでに日本は前年末に戦線を満州（中国東北部）全域に拡大、「満州国」建国の準備を着々と進めていた。アメリカは「宣言」を発したものの独力で介入することを避けたため、日本の動きを封じることができなかった。

国維会
国家主義者・安岡正篤を中心に酒井忠正、近衛文麿、後藤文夫らによって一月一七日に結成された新官僚グループ。日本精神に基づく国政革新を主唱。後藤が斎藤実内閣の農相および岡田啓介内閣の内相に、また河田烈が岡田内閣の書記官長につくなど会員から官僚を輩出した。昭和九年一二月、政界の黒幕との疑惑を解消するため解散した。

国防婦人会
「満州事変」後に組織された軍事援護・国民動員のための婦人団体。三月一八日、大阪市の主婦ら約四〇人が集まり「大阪国防婦人会」を設立（会長・三谷英子、副会長・安田せい）、これが母体となった。わずかな会費、割烹着姿で活動できる気軽さから、短期間に組織を拡大、一〇月には大日本国防婦人会と改称、昭和一七年の大日本婦人会統合時には会員数一〇〇〇万人とも言われた。

朝日新聞社

▲「大日本国防婦人会」と改称され、翌8年11月23日、東京・青山で関東本部の発会式。

電力連盟
宇治川電気、日本電力、大同電力、東邦電力、東京電灯の五大電力会社が四月一九日、融資銀行団と政府の援助で結成した企業連合（カルテル）。外債に依存していた電力業界は、前年末の金輸出再禁止による為替レートの暴落によって経営環境が一気に悪化。カルテルを形成することで競合を避け、互いの利潤を確保しようとしたもの。昭和一四年、電力国家管理にともない解散。

三二年テーゼ
「日本に於ける情勢と日本共産党の任務に関するテーゼ」の略。コミンテルンの指導により決定。七月一〇日付党機関紙「赤旗」に掲載された。日本の支配的制度を絶対主義的天皇制、地主的土地所有、独占資本主義の結合と分析、革命運動の要諦は天皇制国家機構の破壊にあるとした。しかし、革命は目前であるという状況判断や、社会民主主義をファシズムと同一視するなどの、重大な誤りを犯していた。

赤旗 一九三二年七月十日發行 日本に於ける情勢と日本共産黨の任務に關するテーゼ

▲32年テーゼが掲載された「赤旗」特別号。定価は3銭。

満州国協和会
関東軍の指導下に七月二五日、「満州国」で発足した挙国的国民動員組織。建国直後に民衆の宣撫教化のために発足した満州青年連盟を母体とし、全国に地方協議会を構成。名誉総裁は「満州国」執政・溥儀。王道の実践、農政の振興、産業の改革、共産主義の破壊と資本主義の独占の排除などを綱領に掲げた。

ベネチア映画祭
ヨーロッパの諸芸術の振興を目的に創設されたベネチア芸術ビエンナーレ展の映画部門。八月六～二一日に第一回が開催され、二九本が参加。マリオ・カメリーニ監督の「殿方はウソつき」がグランプリに輝いた。ムッソリーニ内閣のプロパガンダとして始められたが、一方で戦後に起こるネオレアリスモなど、イタリア映画界隆盛の基盤を築いた。

農村更生運動
昭和五年以来の冷害と恐慌によって困窮する農村を立ち直らせるために行われた官制の運動。八月二二日、いわゆる「救農議会」が開かれ、農村救済のための予算が成立、九月には農林省に臨時経済更生部が設置され、運動推進の中心となった。その方法は町村が更生計画を提示、それが認可されると補助金が交付されるというもの。産業組合の設立が推奨され、伝統的な隣保共助の精神による自力更生が期待された。

日本労働組合会議
反資本主義・反ファシズム・反共産主義の「三反主義」を活動の基本とする右派・中間派労組の大連合組織。九月二五日結成大会が開かれ、右派の海員組合、前年の「満州事変」で軍部支持を表明した総同盟を中心に一一団体、全組織労働者の七五パーセントにあたる二八万人が傘下に入った。「健全なる組合主義」を掲げたが、軍国主義追随に傾いていった。

武装移民団
「満州国」の治安維持と対ソ戦に備えた兵力増強のために「北満」各地に送られた武装農民。「満州事変」後に吉林軍顧問だった陸軍大尉・東宮鉄男が立案。関東軍参謀・石原莞爾、茨城県の日本国民高等学校校長・加藤完治の協力を得て、九月一日、在郷軍人の募集が開始され、一〇月三日、関東・東北から集まった拓務省第一次武装移民団が東京駅を出発、四一六人が入植した。この計画は昭和一一年の第五次で終了、本格的な集団移民に引き継がれた。

弥栄村史刊行委員会

▲満州の反満抗日集団は推定約20万人。写真は昭和9年、襲われた第1次移民団。

結婚解消
京大医学部教授・鳥潟隆三の娘・静子が結婚式当夜に新郎が性病を患ったことがあることを初めて知り、結婚を解消した事件。一一月九日、平安神宮で「結婚解消」奉告式があげられ、新時代の女性像をアピール。離婚が一方的に男の側から行われていた時代に新鮮な話題を提供した。

司法官赤化事件
東京地裁判事・尾崎陸が一一月一二日、共産党シンパであるとして検挙されたのに続き、司法関係者九人が治安維持法違反で起訴された事件。「赤化」が司法関係者にまでおよんだことによる当局の衝撃は大きかった。一二日付で尾崎は依願免本官となり、判事の身分を失った。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1932

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正
●写真協力
石井美雄 磯部敬恒 井上涼 江戸家猫八 大塚瑛子 乙咩雅一 影山光洋 影山智洋 菊竹淳 ロバート・キャパ 児玉数夫 杉山芳之助 隅田光子 高橋正衛 但馬一憲 立川熊之助 野沢正 福田俊二 三木雅之介 渡辺一雄 渡辺義雄
朝日新聞社 NHK 共同通信社 郷土出版社 CORBIS・BETTMANN PPS 福島民報社 冨山房 平凡社 Popperfoto 毎日新聞社 マグナム・フォト ユニフォト・プレス ROGER-VIOLLET
資生堂 松竹 Disney Enterprises, Inc. 日本中央競馬会 服部セイコー 松坂屋 マツダ映画社 弥栄村史刊行委員会 大宮市立漫画会館 大宅壮一文庫 川喜多記念映画文化財団 気象庁 小松市立博物館 たばこと塩の博物館 中国文化省 東京動物園協会 東京都立光明養護学校 日本漫画資料館 三島市役所

雑誌 23702-1/13
Ⓛ-2001/1/1
T1123702010562

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社